



# AVレシーバー RX-V385 取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機は、ご家庭で映像や音声を楽しむための製品です。
- 本説明書では、本機をお使いになる方のための設置や操作方法を説明しています。
- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。  
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

この製品には、本書のほかに「スタートアップガイド」が付属しています。はじめに「スタートアップガイド」をご覧ください。

# 目次

<b>ご使用になる前に</b>	<b>6</b>	<b>準備する</b>	<b>14</b>
本説明書について.....	6	1 スピーカーを接続する.....	14
本説明書について.....	6	スピーカーの名称と機能.....	14
付属品を確認する.....	6	スピーカーシステムと接続するスピーカー.....	15
付属品を確認する.....	6	スピーカーの準備.....	15
リモコンで操作するには.....	6	スピーカーケーブルの準備.....	15
リモコンに電池を入れる.....	6	スピーカーの接続のしかた.....	15
リモコンの操作範囲.....	6	スピーカーの配置（スピーカーシステム）.....	17
<b>本機の特長</b>	<b>7</b>	バイアンプ接続する.....	20
本機でできること.....	7	2 テレビを接続する.....	21
関連アプリ.....	8	テレビを HDMI 接続する.....	21
AV SETUP GUIDE.....	8	テレビをビデオ（コンポジット）接続する.....	21
各部の名称.....	9	3 AV 機器を接続する.....	22
本体前面の各部の名称と機能.....	9	BD/DVD レコーダーなどを HDMI 接続する.....	22
本体前面ディスプレイの各部の名称と機能.....	11	AV 機器を HDMI 以外で接続する.....	22
本体背面の各部の名称と機能.....	12	4 FM/AM アンテナを接続する.....	24
リモコンの各部の名称と機能.....	13	FM/AM アンテナを接続する.....	24
		5 電源コードを接続する.....	25
		電源コードを接続する.....	25
		6 スピーカー設定を行う.....	26
		スピーカー構成を設定する.....	26
		スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）.....	27
		YPAO のエラーメッセージについて.....	29
		YPAO の警告メッセージについて.....	30

## 音を楽しむ 31

音場効果を楽しむ.....	31
お好みのサウンドを選ぶ.....	31
音場効果を楽しむ（シネマ DSP）.....	31
コンテンツに適した音場効果を楽しむ.....	32
サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）.....	32
前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ（バーチャルシネマ フロント）.....	32
ヘッドホンでサラウンド再生を楽しむ（サイレントシネマ）.....	32
音場効果をかけずに楽しむ.....	33
オリジナルの音声を楽しむ（ストレートデコード）.....	33
音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）..	33
原音に忠実な音質を楽しむ（ダイレクト再生）.....	33
より豊かな低音を楽しむ.....	33
低音を楽しむ（エクストラベース）.....	34
圧縮音源を楽しむ.....	34
圧縮フォーマットを厚みのある音で楽しむ（ミュージックエンハンサー）.....	34

## 再生する 35

基本操作.....	35
再生の基本操作.....	35
本体前面ディスプレイの表示を切り替える.....	36
再生画面の各部の名称と機能.....	36
ブラウズ画面の各部の名称と機能.....	37

FM/AM ラジオを聴く.....	38
周波数を指定してラジオ局を選ぶ.....	38
登録したラジオ局を選ぶ.....	39
FM ラジオ局を自動で登録する（オートプリセット）.....	39
ラジオ局を手動で登録する.....	40
ラジオ局の登録を解除する.....	40
Bluetooth®接続で再生する.....	41
Bluetooth®機器を接続する（ペアリング）.....	41
Bluetooth®機器の音声を本機で再生する.....	42
本機の音声を Bluetooth®対応スピーカー/ヘッドホンで再生する.....	43
USB 機器の曲を再生する.....	44
USB 機器の曲を再生する.....	44
便利な再生機能.....	45
SCENE 機能.....	45
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）.....	47
オプションメニューの基本操作.....	47
オプションメニュー一覧.....	48
入力を切り替える.....	48
音声のトーンを調整する.....	49
DSP/サラウンドの設定を変更する.....	49
再生時の音量差を調整する.....	52
リップシンク補正を設定する.....	53
映像/音声信号情報を確認する.....	53
映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を設定する.....	53
音声と同時に出力する映像を設定する.....	54
FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する.....	54
リピート再生を設定する.....	54

<b>設定する</b>	<b>55</b>
<b>機能設定を変更する（設定メニュー）</b>	<b>55</b>
設定メニューの基本操作	55
設定メニュー一覧	56
<b>スピーカー設定</b>	<b>58</b>
スピーカーシステムの構成を設定する	58
サブウーファースの有無を設定する	58
フロントスピーカーのサイズを設定する	58
センタースピーカーの有無やサイズを設定する	59
サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する	59
低音クロスオーバーの周波数を設定する	59
サブウーファースの位相を設定する	60
エクストラベースを設定する	60
バーチャルシネマフロントを設定する	60
スピーカーの距離を個別に設定する	60
スピーカーの音量を個別に調整する	61
イコライザーを設定する	61
テストトーンを出力する	61
<b>HDMI 設定</b>	<b>62</b>
HDMI コントロールを設定する	62
HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する	62
HDMI スタンバイスルーを設定する	62
HDMI 映像信号の 4K アップスケーリングを設定する	63
HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定する	63
テレビからの音声を入力する端子を設定する	63
本機とテレビのスタンバイ連動を設定する	63
ARC を設定する	64
シーン連動を設定する	64

<b>音声設定</b>	<b>65</b>
パノラマを設定する	65
センターの広がりを調節する	65
ディメンションを調節する	65
センター定位の強さ（広がり感）を調節する	65
モノラルミックスを設定する	66
リップシンクの調整方法を設定する	66
リップシンクの補正値を調整する	66
セリフの音量を調整する	66
音量表示の単位を設定する	67
ダイナミックレンジの調節方法を設定する	67
音量の上限を設定する	67
電源を入れたときの音量を設定する	67
<b>エコ設定</b>	<b>68</b>
自動スタンバイまでの時間を設定する	68
エコモードを設定する	68
<b>ファンクション設定</b>	<b>69</b>
本体前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する	69
本体前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する	69
入力スキップを設定する	70
本体前面ディスプレイの明るさを設定する	70
設定を保護する	70
リモコンのカラーキーの機能を変更する	71
<b>Bluetooth</b>	<b>71</b>
Bluetooth を設定する	71
Bluetooth スタンバイを設定する	71
<b>言語設定</b>	<b>72</b>
メニュー言語を設定する	72

アドバンスト設定を変更する (アドバンストセットアップメニュー)	73
アドバンストセットアップメニューの基本操作	73
アドバンストセットアップメニュー一覧	73
リモコン ID を設定する (REMOTE ID)	73
ビデオ信号方式を設定する (TV FORMAT)	74
HDMI 4K 信号のフォーマットを設定する (4K MODE)	74
設定を初期化する (INIT)	75
ファームウェアを更新する (UPDATE)	75
ファームウェアバージョンを確認する (VERSION)	75

## 困ったときは 76

故障かな？と思ったら	76
故障かな？と思ったら最初にご確認ください	76
電源/システム/リモコンのトラブル	76
音声のトラブル	78
映像のトラブル	80
FM/AM ラジオのトラブル	81
USB のトラブル	82
Bluetooth®のトラブル	82
本体前面ディスプレイのエラー表示	84
本体前面ディスプレイのエラー表示	84

## 付録 85

入出力端子とケーブル	85
映像/音声を入出力する端子	85
映像を入出力する端子	85
音声を入出力する端子	85

用語/技術解説	86
音声に関する用語	86
HDMI/映像に関する用語	88
ヤマハテクノロジーに関する用語	88
対応している機器とフォーマット	89
対応している Bluetooth 機器	89
対応している USB 機器	89
対応しているフォーマット	89
映像信号の流れ	89
映像信号の流れ	89
HDMI について	90
HDMI コントロールと運動機能	90
オーディオリターンチャンネル (ARC)	91
対応している HDMI 信号	92
商標	93
商標	93
主な仕様	94
主な仕様	94
初期値一覧	98
オプションメニュー初期値一覧	98
設定メニュー初期値一覧	98
アドバンストセットアップメニュー初期値一覧	100

# ご使用になる前に

## 本説明書について

### 本説明書について

本説明書をお読みになる時は、次の項目にご注意ください。

- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本説明書では、テレビ画面を見ながらの操作を主として説明しています。テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。
- 本説明書では、付属のリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本説明書内で使用されているマーク
  - 「**!** **警告**」は、死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される情報が記載されています。
  - 「**!** **注意**」は、傷害を負う可能性が想定される情報が記載されています。
  - 「**注意**」は、製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐための情報が記載されています。
  - 「**お知らせ**」は、知っておくと便利な補足情報が記載されています。

## 付属品を確認する

### 付属品を確認する

付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

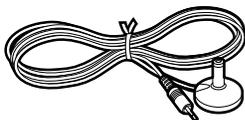
AM アンテナ



FM アンテナ



YPAO 用マイク



リモコン

単 4 乾電池 (2 本)

取扱説明書

スタートアップガイド

#### お知らせ

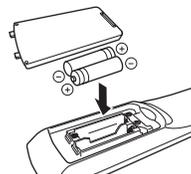
最新の取扱説明書とスタートアップガイドは次のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://download.yamaha.com/jp/>

## リモコンで操作するには

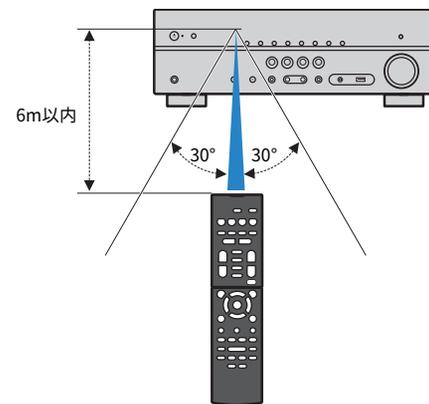
### リモコンに電池を入れる

付属の乾電池を、正しい向き (+と-) でリモコンに入れてください。



### リモコンの操作範囲

リモコンを本体のリモコン信号受光部に向け、次の範囲内で操作してください。



# 本機の特長

## 本機でできること

### 2～5.1 チャンネルのスピーカーシステムに対応

使用するスピーカーの本数に応じて、さまざまなスタイルでお好みの音響空間を満喫できます。

- 「5.1 システムで使用する」(17 ページ)
- 「3.1 システムで使用する」(18 ページ)
- 「バーチャルシネマフロントで使用する」(19 ページ)

### スピーカー設定を簡単に自動調整 (YPAO)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します (YPAO : Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)。

- 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(27 ページ)

### 臨場感豊かな音の空間を再現

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。

- 「音場効果を楽しむ (シネマ DSP)」(31 ページ)
- 「コンテンツに適した音場効果を楽しむ」(32 ページ)
- 「サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ (バーチャルシネマ DSP)」(32 ページ)
- 「ヘッドホンでサラウンド再生を楽しむ (サイレントシネマ)」(32 ページ)
- 「オリジナルの音声を楽しむ (ストレートデコード)」(33 ページ)
- 「音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ (サラウンドデコーダー)」(33 ページ)
- 「原音に忠実な音質を楽しむ (ダイレクト再生)」(33 ページ)
- 「低音を楽しむ (エクストラベース)」(34 ページ)
- 「圧縮フォーマットを厚みのある音で楽しむ (ミュージックエンハンサー)」(34 ページ)

### さまざまなコンテンツを再生

本機は、複数の HDMI 端子に加え、各種の入力/出力端子を装備しています。BD/DVD レコーダーなどのビデオ機器や、CD プレーヤーなどのオーディオ機器、スマートフォンなどの Bluetooth 機器、ゲーム機や USB 機器などさまざまなコンテンツを再生できます。

- 「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」(38 ページ)
- 「Bluetooth®機器の音声を本機で再生する」(42 ページ)
- 「USB 機器の曲を再生する」(44 ページ)

### 便利な機能

入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容 (音場プログラム、ミュージックエンハンサーの有効/無効など) をワンタッチで切り替えられるシーン機能や、HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できる連動機能などが搭載されています。

- 「入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について (SCENE キー)」(45 ページ)
- 「HDMI コントロールと連動機能」(90 ページ)
- 「オーディオリターンチャンネル (ARC)」(91 ページ)

### AV SETUP GUIDE



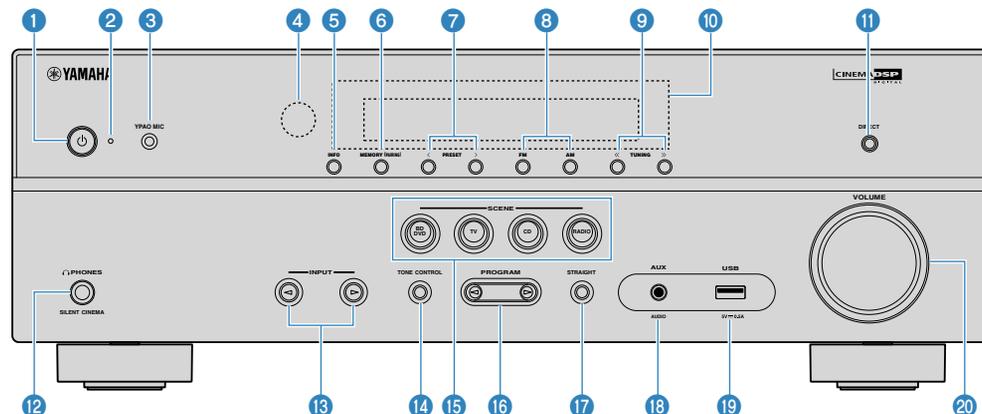
「AV SETUP GUIDE」は、AV レシーバーとプレーヤーなどの AV 機器とのケーブル接続や、AV レシーバーの設定を簡単に行えるアプリです。スピーカー接続やテレビ・AV 機器の接続、スピーカーシステムの選択などのさまざまな設定をガイドしながら進めます。

詳しくは App Store または Google Play™ で「AV SETUP GUIDE」を検索してください。

## 各部の名称

### 本体前面の各部の名称と機能

本体前面の各部の名称と機能について説明します。



#### ① 電源キー

本機の電源を入/切（スタンバイ）します。

#### ② スタンバイ表示

本機がスタンバイ時、次の状態で点灯します。

- ・ HDMI コントロールが有効（62 ページ）
- ・ スタンバイスルーが有効（62 ページ）
- ・ Bluetooth スタンバイが有効（71 ページ）

#### ③ YPAO MIC（YPAO マイク）端子

付属の YPAO 用マイクを接続します（27 ページ）。

#### ④ リモコン信号受光部

リモコンの信号を受信します（6 ページ）。

#### ⑤ INFO（インフォ）キー

本体前面ディスプレイの表示を切り替えます（36 ページ）。

#### ⑥ MEMORY（PAIRING）（メモリー [ペアリング]）キー

FM/AM ラジオ局をプリセットします（40 ページ）。  
数秒間押し続けると、Bluetooth 機器とのペアリングを開始します（41 ページ）。

#### ⑦ PRESET（プリセット）キー

プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます（39 ページ）。

#### ⑧ FM/AM キー

FM/AM を切り替えます（38 ページ）。

#### ⑨ TUNING（チューニング）キー

ラジオ周波数を切り替えます（38 ページ）。

#### ⑩ 本体前面ディスプレイ

各種情報が表示されます（11 ページ）。

#### ⑪ DIRECT（ダイレクト）キー

ダイレクト再生を有効/無効にします（33 ページ）。

#### ⑫ PHONES（フォーンズ）端子

ヘッドホンを接続します。

#### ⑬ INPUT（インプット）キー

入力を切り替えます。

#### ⑭ TONE CONTROL（トーンコントロール）キー

出力される音声の高音域音量と低音域音量を、それぞれ調節します（49 ページ）。

#### ⑮ SCENE（シーン）キー

シーン機能で設定した複数の項目をワンタッチで切り替えます（45 ページ）。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

**16 PROGRAM (プログラム) キー**

音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます  
(31 ページ)。

**17 STRAIGHT (ストレート) キー**

ストレートデコードを有効/無効にします  
(33 ページ)。

**18 AUX 端子**

携帯音楽プレーヤーなどの機器を接続します  
(23 ページ)。

**19 USB 端子**

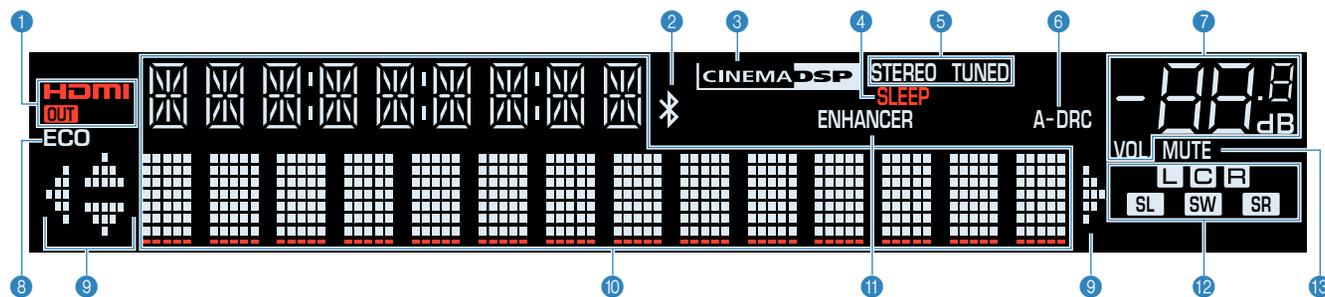
USB 機器を接続します (44 ページ)。

**20 VOLUME (ボリューム) つまみ**

音量を調節します。

## 本体前面ディスプレイの各部の名称と機能

本体前面のディスプレイの各部の名称と機能について説明します。



### ① HDMI

HDMI 信号入力/出力時に点灯します。

#### OUT (アウト)

HDMI 信号出力時に点灯します。

### ② BLUETOOTH (ブルートゥース)

Bluetooth 機器が接続されているとき (42 ページ) に点灯します。

### ③ CINEMA DSP (シネマ DSP)

シネマ DSP (31 ページ) が機能しているときに点灯します。

### ④ SLEEP (スリープ)

スリープタイマー設定時に点灯します。

### ⑤ STEREO (ステレオ)

ステレオ放送受信時に点灯します。

#### TUNED (チューンド)

FM/AM ラジオ受信時に点灯します。

### ⑥ A-DRC (アダプティブ DRC)

アダプティブ DRC (51 ページ) が機能しているときに点灯します。

### ⑦ 音量表示

音量を表示します。

### ⑧ ECO (エコ)

エコモード有効時 (68 ページ) に点灯します。

### ⑨ カーソル表示

操作可能なリモコンのカーソルキーを表示します。

### ⑩ 情報ディスプレイ

選択中の入力や音場プログラムなどの情報を表示します。INFO キーで、表示する情報を切り替えられます (36 ページ)。

### ⑪ ENHANCER (エンハンサー)

ミュージックエンハンサー (34 ページ) が機能しているときに点灯します。

### ⑫ スピーカー表示

音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

**L** フロントスピーカー (左)

**R** フロントスピーカー (右)

**C** センタースピーカー

**SL** サラウンドスピーカー (左)

**SR** サラウンドスピーカー (右)

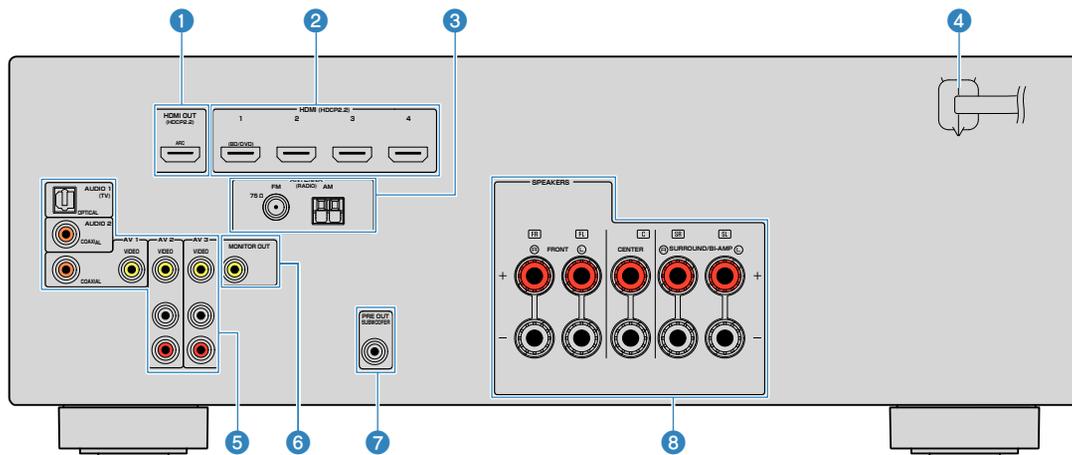
**SW** サブウーファー

### ⑬ MUTE (ミュート)

ミュートが機能しているときに点滅します。

## 本体背面の各部の名称と機能

本体背面の各部の名称と機能について説明します。



- 実際の製品では、誤接続を防ぐために映像/音声出力端子の周辺が白色で塗られています。

### 1 HDMI OUT (HDMI アウト) 端子

HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像/音声を出力します (21 ページ)。ARC 使用時は、HDMI OUT 端子でテレビ音声の入力も可能です。

### 2 HDMI1~4 端子

HDMI 出力対応の AV 機器を接続し、映像/音声を入力します (22 ページ)。

### 3 ANTENNA (アンテナ) 端子

FM アンテナと AM アンテナを接続します (24 ページ)。

### 4 電源コード

電源コードのプラグをコンセントに接続します (25 ページ)。

### 5 AUDIO1~2 端子、AV1~3 端子

映像/音声出力を持つ AV 機器を接続し、映像/音声を入力します (22 ページ)。

### 6 MONITOR OUT (モニターアウト) 端子

テレビを接続し、映像を出力します (21 ページ)。

### 7 SUBWOOFER PRE OUT (サブウーファープリアウト) 端子

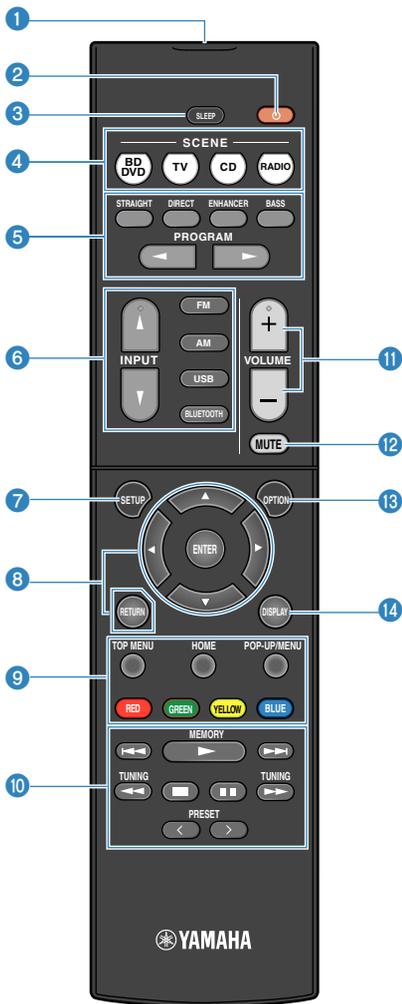
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します (16 ページ)。

### 8 SPEAKERS (スピーカー) 端子

スピーカーを接続します (14 ページ)。

# リモコンの各部の名称と機能

リモコンの各部の名称と機能について説明します。



## ① リモコン信号送信部

赤外線を送信します。

## ② 〇 (レシーバー電源) キー

本機の電源を入/切 (スタンバイ) します。

## ③ SLEEP (スリープ) キー

繰り返し押し続けてスリープタイマーの時間 (120分、90分、60分、30分、切) を設定します。スリープタイマー設定中は、本体前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると、本機がスタンバイになります。

## ④ SCENE (シーン) キー

シーン機能で設定した複数の項目をワンタッチで切り替えます (45 ページ)。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

## ⑤ サウンド選択キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーなどを選びます (31 ページ)。

## ⑥ 入力選択キー

再生する入力を選びます。

## ⑦ SETUP (セットアップ) キー

設定メニューを表示します (55 ページ)。

## ⑧ メニュー操作キー

メニュー操作を行います。

## ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ 外部機器操作キー

HDMI コントロールに対応している AV 機器の再生操作を行います。また、USB 機器の再生操作を行います。

### お知らせ

- HDMI コントロールに対応している AV 機器が対象です。ただし、すべての HDMI コントロール対応機器の動作を保証するものではありません。
- RED、GREEN、YELLOW、BLUE の各キーには、本機の機能を割り当てられます (71 ページ)。

## ⑩ 再生操作キー

外部機器の再生操作を行います。

## ⑪ VOLUME (ボリューム) キー

音量を調節します。

## ⑫ MUTE (ミュート) キー

消音します。

## ⑬ OPTION (オプション) キー

オプションメニューを表示します (47 ページ)。

## ⑭ DISPLAY (ディスプレイ) キー

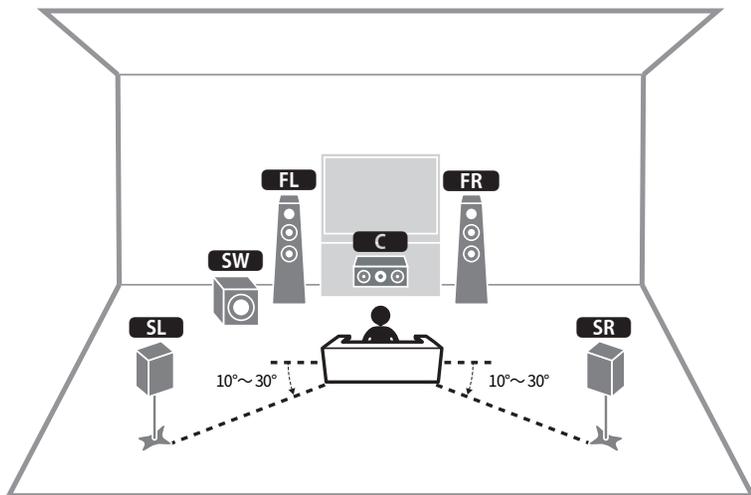
テレビに再生画面、ブラウズ画面などを表示します。

# 準備する

## 1 スピーカーを接続する

### スピーカーの名称と機能

本機に接続する各スピーカーの名称と機能について説明します。



スピーカーの種類	略称	機能
フロント左/右	FL / FR	フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ/ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
サラウンド左/右	SL / SR	サラウンドチャンネルの音声を出力します。
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。

#### お知らせ

- この配置が本機の理想的なスピーカー配置です。ただし、図に正確に合わせる必要はありません。自動測定（YPAO）を実行することで、配置に合わせてスピーカー設定（距離など）を補正できます。
- サブウーファーは左右どちらに設置してもかまいません。

## スピーカーシステムと接続するスピーカー

使用するスピーカーの本数に応じてスピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーファーを部屋に配置します。

スピーカーの種類	スピーカーシステム (チャンネル数)		
	5.1	3.1	2.1
フロント (左/右) <b>FL</b> / <b>FR</b>	●	●	●
センター <b>C</b>	●	●	
サラウンド (左/右) <b>SL</b> / <b>SR</b>	●		
サブウーファー <b>SW</b>	●	●	●

## スピーカーの準備

本機に接続するスピーカーとサブウーファーは、次の条件に合うものを準備してください。

- スピーカーはインピーダンスが6Ω以上のもの
- サブウーファーはアンプ内蔵のもの

### お知らせ

- スピーカーは使用するシステムに応じた数を準備してください。
- フロントスピーカー (左/右) は必ず接続してください。

## スピーカーケーブルの準備

本機とスピーカーを接続するために、次のケーブル (市販品) を準備してください。

- スピーカーケーブル (スピーカー接続用)



- モノラルピンケーブル (サブウーファー接続用)



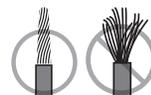
## スピーカーの接続のしかた

### ■ スピーカーを接続する

本機とスピーカーの一 (マイナス) 端子どうし、+ (プラス) 端子どうしをスピーカーケーブルで接続してください。

### 注意

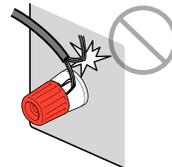
- スピーカーケーブルを加工・接続するときは、次に注意してください。
- スピーカーケーブルを加工するときは、本機から離れた場所で行ってください。スピーカーケーブルの芯線が本機内部に入りショートするなど、故障の原因となります。
- 誤った方法でスピーカーケーブルを接続すると、スピーカーケーブルがショートし、本機やスピーカーが故障する原因となります。
  - 芯線の先端をしっかりよじってください。



- 芯線どうしを接触させないでください。



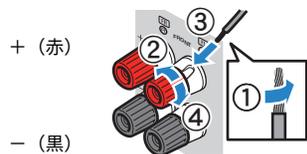
- 芯線の本機の金属部 (背面パネル、ネジなど) に接触させないでください。



### お知らせ

- 接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。
- フロントスピーカー (左/右) は必ず接続してください。

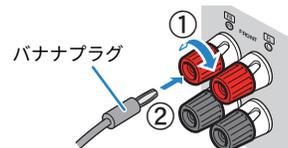
- 1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約 10mm はがし、芯線をしっかりとよじる。
- 2 スピーカー端子をゆるめる。
- 3 端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。
- 4 端子を締め付ける。



これでスピーカーの接続は完了です。

#### お知らせ

- 電源を入れて本体前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示された場合は、電源を切り、スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。
- バナナプラグを使用する場合は、スピーカー端子をゆるめずに、バナナプラグを端子に差し込んでください。

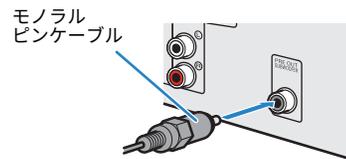


## ■ サブウーファーを接続する

本機とサブウーファーをモノラルピンケーブルで接続してください。

#### お知らせ

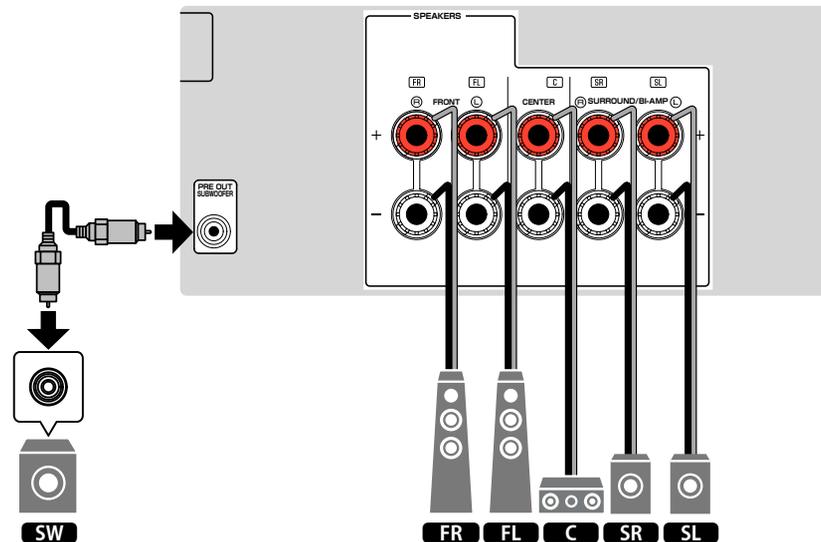
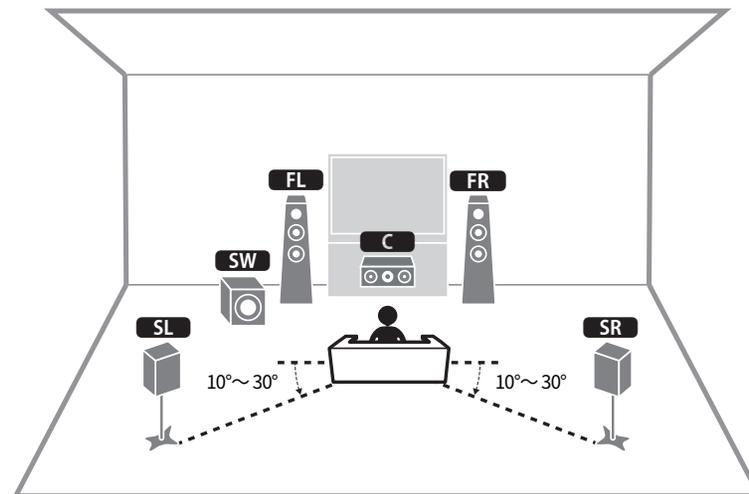
接続する前に、本機とサブウーファーの電源プラグをコンセントから外してください。



## スピーカーの配置 (スピーカーシステム)

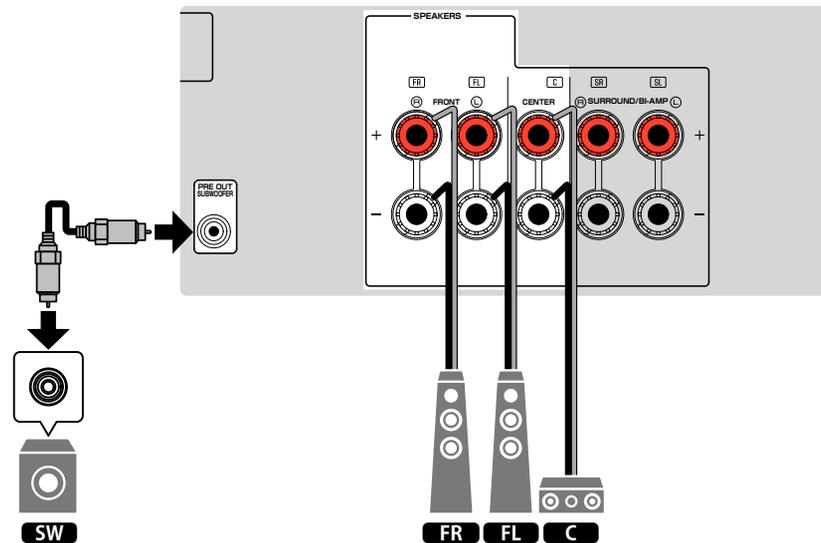
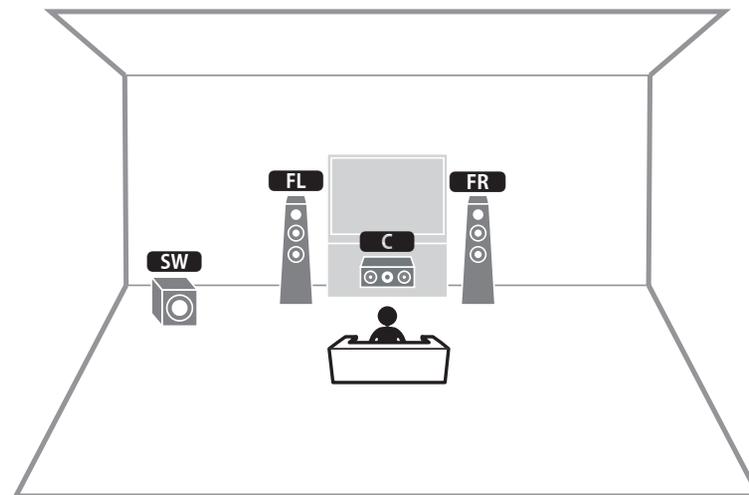
### ■ 5.1 システムで使用する

サラウンド再生を楽しむ基本的な配置です。



### ■ 3.1 システムで使用する

センタースピーカー付のステレオ再生システムです。映画のセリフやボーカルなど、画面中央に位置する音声をクリアーに出力します。



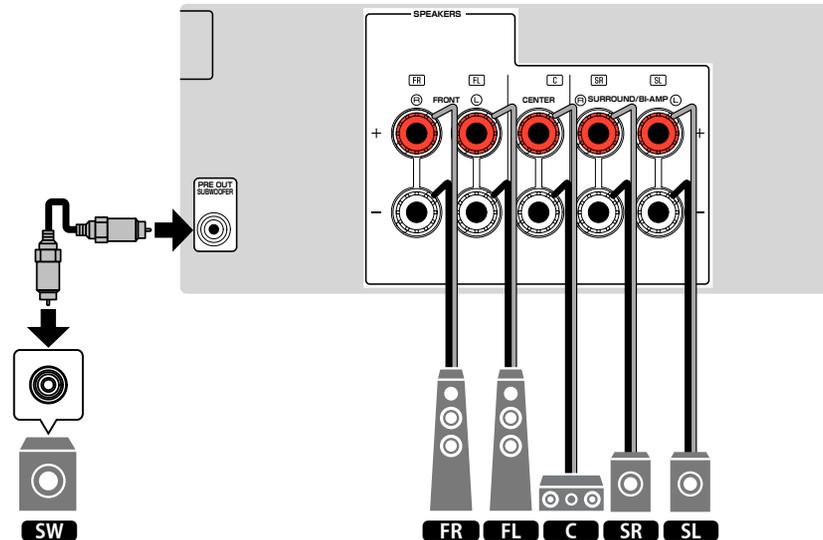
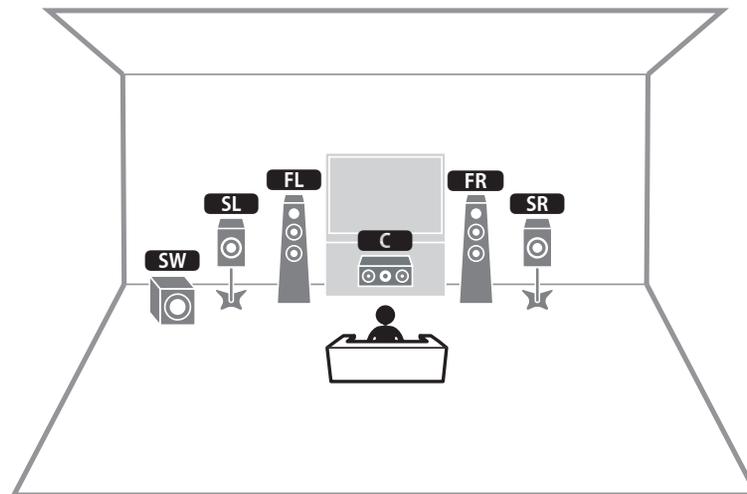
## ■ バーチャルシネマフロントで使用する

部屋の後方にスピーカーを配置できない場合におすすめのスピーカーシステムです。

### お知らせ

バーチャルシネマフロントを使用するには、設定の変更が必要です。詳しくは次をご覧ください。

- 「スピーカー構成を設定する」(26 ページ)
- 「バーチャルシネマフロントを設定する」(60 ページ)



## バイアンプ接続する

バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続します。

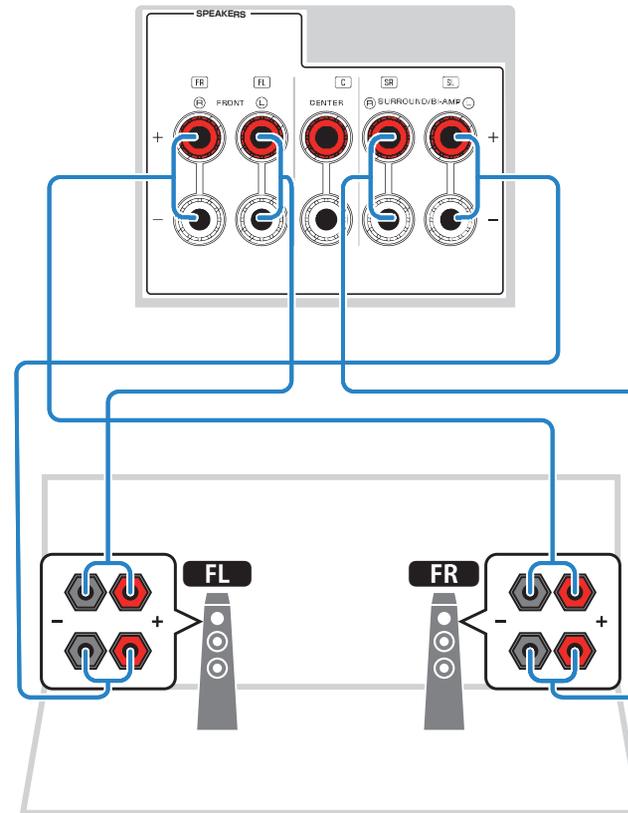
バイアンプ機能を有効にするには、設定の変更が必要です。詳しくは次をご覧ください。

- 「スピーカー構成を設定する」(26 ページ)
- 「スピーカーシステムの構成を設定する」(58 ページ)

### 注意

- バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具（またはケーブル）を取り外してください。バイアンプ接続をしない場合は、必ず金具（またはケーブル）を取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

本機（背面）



### お知らせ

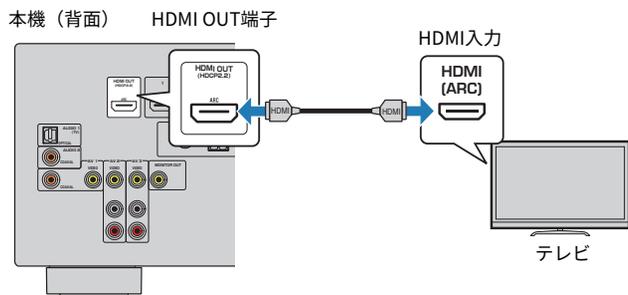
次の接続は同時に使用できません。

- サラウンドスピーカー
- バイアンプ接続

## 2 テレビを接続する

### テレビを HDMI 接続する

HDMI ケーブルを使って、本機にテレビを接続します。テレビの ARC 対応の HDMI 端子に本機を接続した場合、本機からテレビに映像を伝送する HDMI ケーブルを使って、テレビの音声の本機に入力できます。



#### オーディオリターンチャンネル (ARC) とは

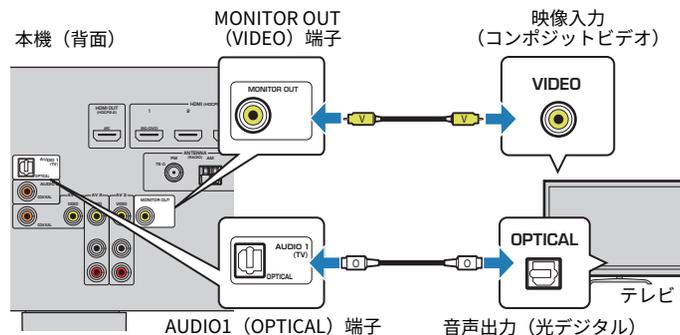
1本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になります。ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルで本機とテレビを接続してください。

#### お知らせ

- テレビが HDMI コントロールに対応している場合、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。
- HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。詳しくは次をご覧ください。
  - 「HDMI コントロールと連動機能」(90 ページ)
  - 「オーディオリターンチャンネル (ARC)」(91 ページ)
- テレビが ARC 対応でない場合、テレビの音を本機で再生するときは光デジタルケーブル接続が必要です。

### テレビをビデオ (コンポジット) 接続する

映像用ピンケーブル (コンポジットケーブル) を使って、本機にテレビを接続します。



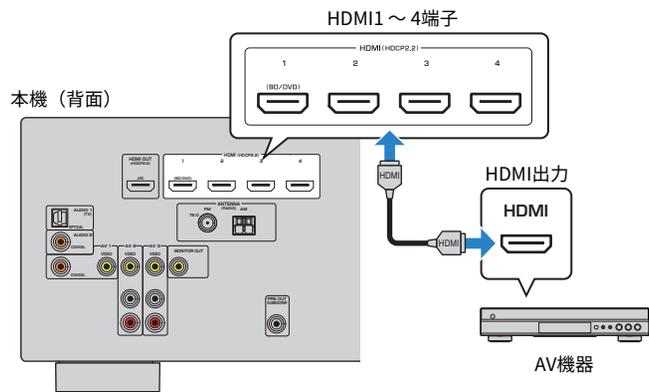
#### お知らせ

- HDMI で接続したビデオ機器の映像は、コンポジットビデオ接続したテレビには出力できません。詳しくは次をご覧ください。
  - 「映像信号の流れ」(89 ページ)
- コンポジットビデオ接続したテレビには、本機の各種機能の設定画面や選曲画面は出力できません。

### 3 AV 機器を接続する

#### BD/DVD レコーダーなどを HDMI 接続する

HDMI ケーブルを使って、本機に AV 機器を接続します。



#### お知らせ

HDMI 接続した AV 機器の映像をテレビで見るとは、テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続する必要があります。接続方法については次をご覧ください。

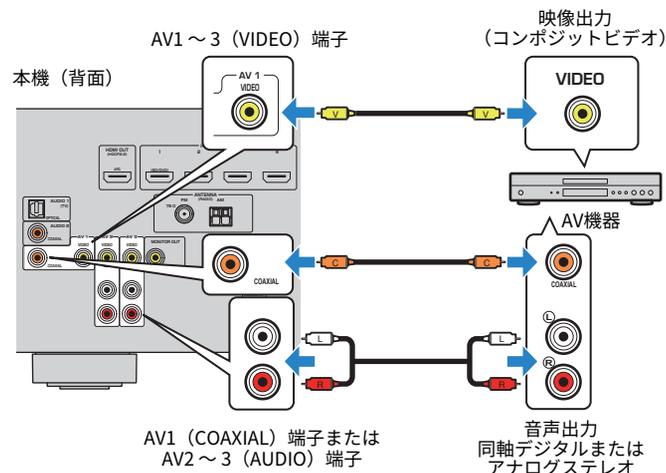
- 「テレビを HDMI 接続する」(21 ページ)

#### AV 機器を HDMI 以外で接続する

##### ■ AV 機器をビデオ (コンポジット) 接続する

映像用ピンケーブルと音声ケーブル (同軸デジタルまたはステレオピンケーブル) を使って、本機に AV 機器を接続します。AV 機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子が異なります。

AV 機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポジットビデオ	同軸デジタル	AV1
	アナログステレオ	AV2~3



#### お知らせ

- 本機とビデオ (コンポジット) 接続した AV 機器の映像をテレビで見るとは、テレビを本機の MONITOR OUT (VIDEO) 端子に接続する必要があります。接続方法については次をご覧ください。
  - 「テレビをビデオ (コンポジット) 接続する」(21 ページ)
- 本機の入力端子 (映像/音声) の組み合わせが AV 機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、AV 機器の出力端子にあわせて変更します。変更方法については次をご覧ください。
  - 「映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を設定する」(53 ページ)

## ■ CD プレーヤーなどを接続する

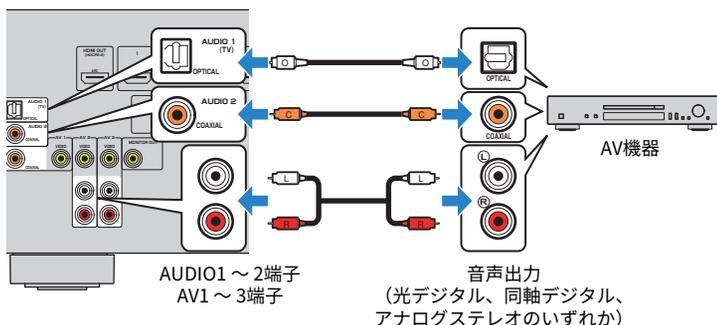
本機に CD プレーヤー、MD プレーヤーなどの AV 機器を接続します。接続する AV 機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。

### お知らせ

本機にレコードプレーヤーを接続する場合は、フォノイコライザーアンプ（市販品）が必要です。フォノイコライザーアンプの出力を本機に接続してください。

AV 機器の音声出力端子	本機の音声入力端子
光デジタル	AUDIO1
同軸デジタル	AUDIO2、AV1
アナログステレオ	AV2～3

本機（背面）



### お知らせ

初期状態では、テレビの音声入力用として「AUDIO1」が設定されています。AUDIO1 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能を使う場合は、SCENE (TV) キーの入力設定もあわせて変更してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「テレビからの音声を入力する端子を設定する」(63 ページ)
- 「SCENE キーの登録内容を変更する」(46 ページ)

## ■ 本体前面の端子に AV 機器を接続する

携帯音楽プレーヤーなどの AV 機器を一時的に本機へ接続する場合は、前面の AUX 端子を利用すると便利です。

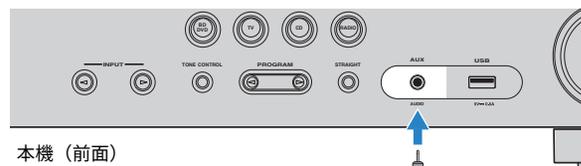


### 注意

- 接続する前に、AV 機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

### お知らせ

AV 機器の音声出力端子に応じて、適切なケーブルをご用意ください。



本機（前面）



携帯音楽プレーヤー

3.5mmステレオミニプラグ

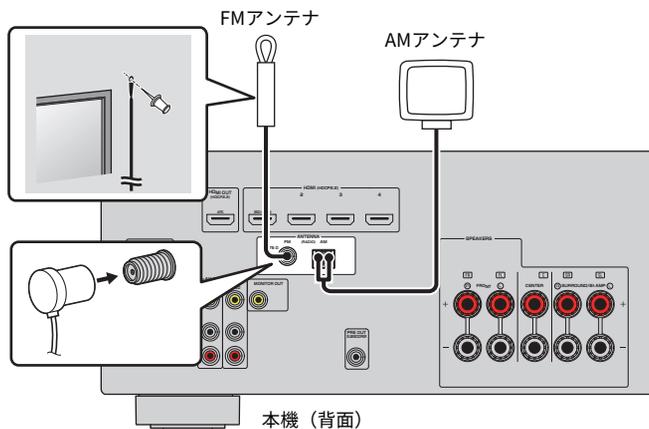
INPUT キーを押して入力を「AUX」に切り替えると、接続した機器の音声が本機から出力されます。

## 4 FM/AM アンテナを接続する

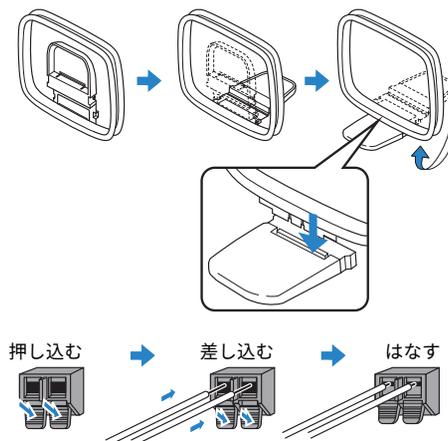
### FM/AM アンテナを接続する

本機に付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。

接続後、FM アンテナは壁に固定し、AM アンテナは水平な場所に置いてください。



### AM アンテナの組立と接続



#### お知らせ

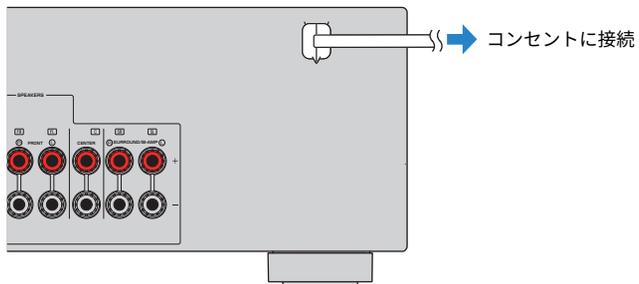
- AM アンテナのコードは、配線に必要な分だけをアンテナ本体からほどいてお使いください。
- AM アンテナのコードに極性はありません。

## 5 電源コードを接続する

### 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、本機の電源プラグをコンセントに接続します。

本機（背面）



## 6 スピーカー設定を行う

### スピーカー構成を設定する

次のスピーカーシステムを使用する場合は、スピーカー設定の構成を変更してください。

- バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを使ったシステム
- サラウンドスピーカーを使ったフロント 5.1 チャンネルシステム（バーチャルシネマフロント）

#### お知らせ

スピーカーシステムについて詳しくは、次をご覧ください。

- 「バイアンプ接続する」(20 ページ)
- 「バーチャルシネマフロントで使用する」(19 ページ)

- 1 ㊦（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。
- 3 SETUP キーを押す。
- 4 カーソルキーで「スピーカー設定」を選び、ENTER キーを押す。
- 5 カーソルキーで「構成」を選び、ENTER キーを押す。
- 6 必要なスピーカー設定を変更する。
  - バイアンプ接続の場合は、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で該当するスピーカーシステムを選ぶ。詳しくは次をご覧ください。
    - 「スピーカーシステムの構成を設定する」(58 ページ)
  - フロント 5.1 チャンネルシステム（バーチャルシネマフロント）の場合は、設定メニューの「バーチャルシネマフロント」で「オン」を選ぶ。詳しくは次をご覧ください。
    - 「バーチャルシネマフロントを設定する」(60 ページ)

### 7 SETUP キーを押す。

これでスピーカー構成の設定は完了です。

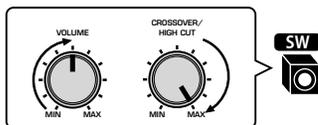
## スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します (YPAO : Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)。

### お知らせ

- テレビやスピーカーの接続が終わってから YPAO を実行してください。
- YPAO の実行前に、スピーカー構成の設定をしてください。設定方法については次をご覧ください。  
-「スピーカー構成を設定する」(26 ページ)
- 測定中は大きな音を出力します。音量は調節できません。
- 測定中は部屋の後方の隅にとどまり、大きな音を出さないでください。スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮ったり、大きな音を出したりすると正しく測定することができません。
- ヘッドホンは接続しないでください。

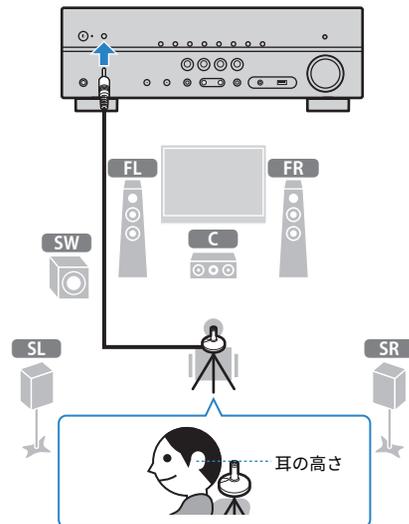
- 1 電源 (レシーバー電源) キーで本機の電源を入れる。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える。
- 3 サブウーファの電源を入れ、音量を半分に調節する。  
クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。



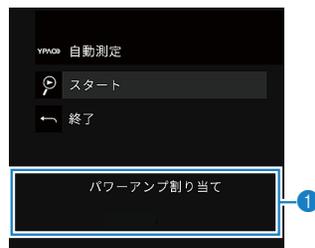
## 4 付属の YPAO 用マイクを視聴位置 (耳の高さ) に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。

三脚などをマイクスタンドとして使用し、YPAO 用マイクを視聴位置 (耳の高さ) に置いてください。三脚のネジを使ってマイクを固定できます。

本機 (前面)



テレビに次の画面が表示されます。



- 1 設定メニューの「パワーアンプ割り当て」の設定値

## 5 測定を始めるには、カーソルキーで「スタート」を選び、ENTER キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、ENTER キーを押します。所要時間は約 3 分です。

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



- 1 スピーカーの本数（前方スピーカー/後方スピーカー/サブウーファー）
- 2 スピーカーの距離（最も近いスピーカー/最も遠いスピーカー）
- 3 スピーカーの音量補正範囲
- 4 警告メッセージ（発生時のみ）

### お知らせ

- 測定を一時中断するには、RETURN キーを押します。
- エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-1 など）が表示された場合は、次をご覧ください。
  - 「YPAO のエラーメッセージについて」（29 ページ）
  - 「YPAO の警告メッセージについて」（30 ページ）
- 警告メッセージの対象になっているスピーカーは、本体前面ディスプレイのスピーカー表示が点滅します。
- （本体前面ディスプレイでの操作時）複数の警告メッセージが生じた場合は、カーソルキーで表示を切り替えて確認してください。

## 6 測定結果を確認し、ENTER キーを押す。

## 7 測定結果をスピーカー設定に反映するには、カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。

補正されたスピーカー設定が反映されます。

### お知らせ

測定結果を反映せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

## 8 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

### 注意

- YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

## YPAO のエラーメッセージについて

YPAO の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、次の表をもとに原因を解決してから再測定をしてください。

### お知らせ

カッコ内の表記は本体前面ディスプレイの表示です。

エラーメッセージ	原因	対策
<b>E-1:フロント SP 無し</b> (E-1:NO FRNT SP)	フロントスピーカーを検出できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。
<b>E-2:サラウンド SP 無し</b> (E-2:NO SUR SP)	サラウンドスピーカーの片側を検出できない。	
<b>E-5:暗騒音大</b> (E-5:NOISY)	雑音が大きいため測定できない。	部屋が静かになってから再測定してください。「続行」を選んだ場合は、雑音を検出しても無視する条件で再測定します。
<b>E-7:マイク未接続</b> (E-7:NO MIC)	測定中に YPAO 用マイクが外れた。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。
<b>E-8:信号入力無し</b> (E-8:NO SIGNAL)	YPAO 用マイクがテストトーンを検出できない。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
<b>E-9:測定キャンセル</b> (E-9:CANCEL)	測定が中断された。	目的に応じて、再測定するか YPAO を終了してください。
<b>E-10:内部エラー</b> (E-10:INTERNAL)	内部エラーが発生した。	YPAO を終了してから、本機の電源を入れ直してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

### お知らせ

- 原因解決のために YPAO を終了する場合は、ENTER キーを押したあと、カーソルキーで「終了」を選び、ENTER キーを押します。
- エラーメッセージが E-5、E-9 の場合は、YPAO を終了せずに現在の測定を続けることが可能です。ENTER キーを押したあと、カーソルキーで「続行」を選び、ENTER キーを押します。
- 再測定する場合は、ENTER キーを押したあと、カーソルキーで「再測定」を選び、ENTER キーを押します。

## YPAO の警告メッセージについて

YPAO の測定後に警告メッセージ表示された場合は、次の表をもとに原因を解決してから再測定をしてください。

警告メッセージが表示されていても測定結果を保存できますが、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから再度実行することをおすすめします。

### お知らせ

カッコ内の表記は本体前面ディスプレイの表示です。

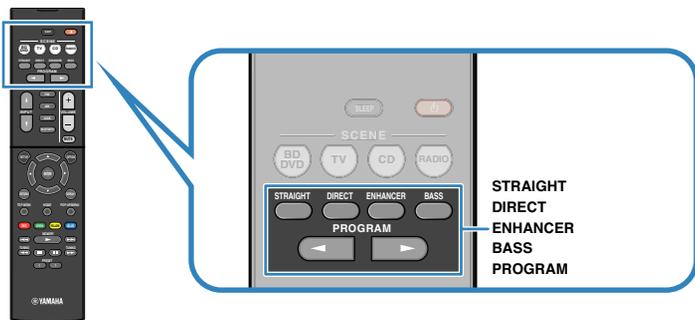
警告メッセージ	原因	対策
<b>W-1:SP 接続逆相 (W-1:PHASE)</b>	スピーカーの極性 (+と-) が逆に接続されている可能性がある。	該当スピーカーのケーブル接続 (+と-) を確認してください。 <b>間違って接続されている場合：</b> YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーケーブルを接続し直してください。 <b>正しく接続されている場合：</b> スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されていてもこのメッセージが表示されることがあります。設定を保存し、そのままお使いください。 (お客様への確認を促すメッセージであり、そのままお使いいただいても本機の再生に影響はありません。)
<b>W-2:距離補正限界 (W-2:DISTANCE)</b>	スピーカーと視聴位置の距離が 24m を超えているため、正確に補正できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーを視聴位置から 24m 以内に設置してください。
<b>W-3:音量補正限界 (W-3:LEVEL)</b>	スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	各スピーカー間の使用環境やケーブル接続 (+と-)、サブウーファアの音量が適切かどうか確認してください。問題がある場合は、YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーの接続や配置を直してください。なるべく同じスピーカー、または性能が似ているスピーカーをお使いください。

# 音を楽しむ

## 音場効果を楽しむ

### お好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。



#### お知らせ

- 音場プログラムは入力ごとに記憶されます。
- 音声出力中のスピーカー端子は、本体前面ディスプレイのスピーカー表示で確認できます。
- 設定メニューの「リモコンカラーキー」で、リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE の各キーにサウンド選択の機能を割り当てられます。詳しくは次をご覧ください。
  - 「リモコンのカラーキーの機能を変更する」(71 ページ)

### 音場効果を楽しむ (シネマ DSP)

本機には、ヤマハ独自の音場技術 (シネマ DSP) を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現できます。

#### CINEMA DSP

音場プログラムの種類



#### お知らせ

- オプションメニューの「エフェクト量の加減」で、音場プログラムのエフェクト量 (音場効果のかかり具合) を調整できます。詳しくは次をご覧ください。
  - 「音場プログラムの効果量を調節する」(51 ページ)
- 音場プログラムは入力ごとに記憶されます。

## コンテンツに適した音場効果を楽しむ

本機には、さまざまな音場プログラムが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。

- 音楽鑑賞を楽しむ場合は、「MUSIC」と表示される音場プログラムをおすすめします。
- 映像コンテンツを楽しむ場合は、「MOVIE」と表示される音場プログラムをおすすめします。
- ステレオ再生を楽しむ場合は、「STEREO」と表示される音場プログラムをおすすめします。

詳しくは次をご覧ください。

- 「音場プログラムを選択する」(49 ページ)

### お知らせ

音場プログラムは PROGRAM キーで選択できます。

## サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ (バーチャルシネマ DSP)

バーチャルシネマ DSP により、サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しめます。サラウンドスピーカーが接続されていない状態で音場プログラム (「2ch ステレオ」、「5ch ステレオ」以外) を選択すると、本機は前方のスピーカーだけで仮想スピーカーを構築し、自動的に後方の音場を創り出します。

## 前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ (バーチャルシネマフロント)

バーチャルシネマフロントを使うと、前方に設置した 5 本のスピーカーでマルチチャンネルサラウンド再生を楽しめます。サラウンドスピーカーを前方に設置して、設定メニューの「バーチャルシネマフロント」を「オン」に設定すると、仮想サラウンドスピーカーを後方に構築します。

### お知らせ

設定メニューの「バーチャルシネマフロント」については、次をご覧ください。

- 「バーチャルシネマフロントを設定する」(60 ページ)

## ヘッドホンでサラウンド再生を楽しむ (サイレントシネマ)

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選択すると、ステレオヘッドホンでもマルチチャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド感や音場効果を楽しめます。

SILENT™  
CINEMA

## 音場効果をかけずに楽しむ

### オリジナルの音声を楽しむ（ストレートデコード）

STRAIGHT キーを押してストレートデコードを有効にすると、CD などの 2 チャンネルソースを、音場効果をかけずにフロントスピーカーからステレオ音声で再生できます。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。



ストレートデコードは、STRAIGHT キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

### 音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）

PROGRAM キーを押して、「サラウンドデコード」を選択します。前回選択していたサラウンドデコーダーの種類が選択されます。サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで再生します。

「SUR. DECODE」と表示



#### お知らせ

- サラウンドデコーダーの種類は、PROGRAM キーでは切り替えられません。オプションメニューの「サラウンドデコード」で切り替えます。詳しくは次をご覧ください。
  - 「サラウンドデコードで使用するデコーダーを選択する」(51 ページ)
- 各サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。
  - 「音声デコードフォーマットに関する用語」(86 ページ)
- 各サラウンドデコーダーに関する設定は、設定メニューの「DSP パラメーター」で変更できます。詳しくは次をご覧ください。
  - 「バノラマを設定する」(65 ページ)
  - 「センターの広がり調節する」(65 ページ)
  - 「ディメンションを調節する」(65 ページ)
  - 「センター定位の強さ（広がり感）を調節する」(65 ページ)

### 原音に忠実な音質を楽しむ（ダイレクト再生）

DIRECT キーを押して、ダイレクト再生を有効にすると、音場効果をかけずに最低限必要な回路のみで再生できます。これにより、原音により忠実な音質を再現できます。



ダイレクト再生は、DIRECT キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

#### お知らせ

- ダイレクト再生時、次の機能は使用できません。
  - 音場プログラムの選択
  - トーンコントロールの調整
  - オプションメニュー、設定メニューの操作
  - 本体前面ディスプレイの表示（操作がない場合）
- ダイレクト再生時は、本体前面ディスプレイの表示が暗くなります。

## より豊かな低音を楽しむ

### 低音を楽しむ（エクストラベース）

BASS キーを押して、エクストラベースを有効にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。エクストラベースは、BASS キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

#### お知らせ

設定メニューの「エクストラベース」でも、エクストラベースを有効/無効にできます。詳しくは次をご覧ください。

- 「エクストラベースを設定する」(60 ページ)

## 圧縮音源を楽しむ

### 圧縮フォーマットを厚みのある音で楽しむ（ミュージックエンハンサー）

ENHANCER キーを押して、ミュージックエンハンサーを有効にすると、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

compressed music  
ENHANCER

「ENHANCER」が点灯



ミュージックエンハンサーは、ENHANCER キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

#### お知らせ

- ミュージックエンハンサーは、次の音源には機能しません。
  - サンプル周波数が 48kHz を超える音声
  - DSD の音声
- オプションメニューの「エンハンサー」でも、ミュージックエンハンサーを有効/無効にできます。詳しくは次をご覧ください。
  - 「ミュージックエンハンサーを設定する」(52 ページ)

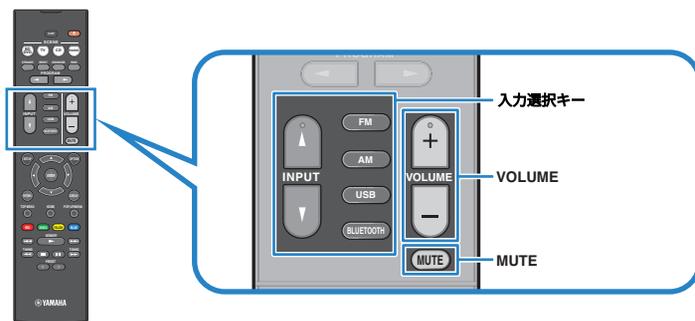
# 再生する

## 基本操作

### 再生の基本操作

映像や音楽を再生する場合の基本的な操作方法を説明します。

- 1 本機に接続した外部機器の電源を入れる。
- 2 入力選択キーで入力を選ぶ。



- 3 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

### 4 VOLUME キーで音量を調節する。

#### お知らせ

- MUTE キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- 外部機器の操作については、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

## 本体前面ディスプレイの表示を切り替える

本体前面の INFO キーを繰り返し押して、本体前面ディスプレイの表示項目を、次表のとおり切り替えられます。



項目

約 3 秒後に該当する情報が表示されます。



情報

入力グループ	表示項目
<b>HDMI</b>	
AV	Input (入力名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)
AUX	Decoder (デコーダー名*)
<b>AUDIO</b>	
Bluetooth	Song (曲名)、Artist (アーティスト名)、Album (アルバム名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)
USB	
<b>TUNER</b>	Frequency (周波数)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)

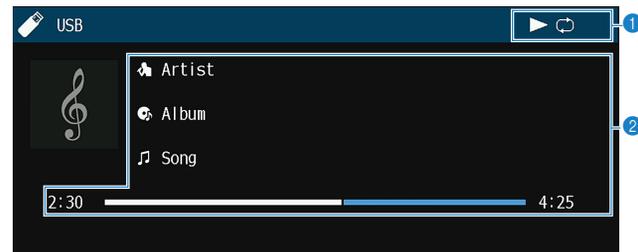
\* 現在動作しているオーディオデコーダー名が表示されます。動作していない場合は「Decoder Off」と表示されます。

### お知らせ

- 入力により切り替え可能な表示項目が異なります。また表示項目は入力グループごとに記憶されます。
- 曲名やアーティスト名などの日本語は表示されません。「\_」で表示されます。

## 再生画面の各部の名称と機能

本機と HDMI 接続したテレビに再生時表示される再生画面の各部の名称と機能について説明します。



### ① 再生表示

再生 (再生/一時停止)、リピート再生の再生状態が表示されます。

### ② 再生情報

アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間/曲の長さなどが表示されます。

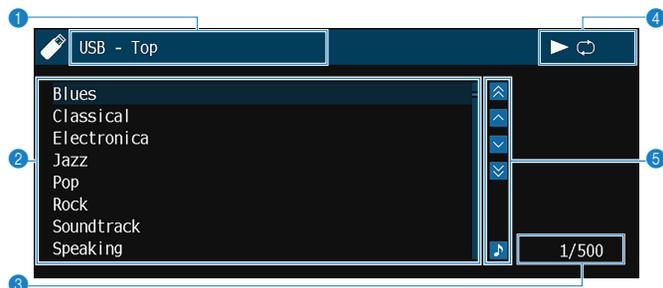
### お知らせ

- 再生内容によって表示が異なります。
- リモコンの外部機器操作キー (▶、■、■、◀◀、▶▶) で再生操作ができます (外部機器によっては一部の機能を操作できない場合があります)。

## ブラウザ画面の各部の名称と機能

本機と HDMI 接続したテレビに表示されるブラウザ画面の各部の名称と機能について説明します。ブラウザ画面は、次の入力を選択したときに表示されます。

- USB



### ① リスト名

### ② コンテンツリスト

コンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押します。

### ③ コンテンツ番号/総数

### ④ ステータス表示

リピート再生の設定、および再生状態（再生/一時停止など）が表示されます。

### ⑤ 操作メニュー

カーソルキーでアイコンを選び、ENTER キーを押します。

アイコン	説明
	10 ページ上のリストを表示します。
	1 ページ上のリストを表示します。
	1 ページ下のリストを表示します。
	10 ページ下のリストを表示します。
	再生画面を表示します。

### お知らせ

- 再生内容によって表示が異なります。
- 本体前面ディスプレイにはカーソルで選択中のコンテンツ名が表示されます。

## FM/AM ラジオを聴く

### 周波数を指定してラジオ局を選ぶ

周波数を指定して FM/AM ラジオを選局します。

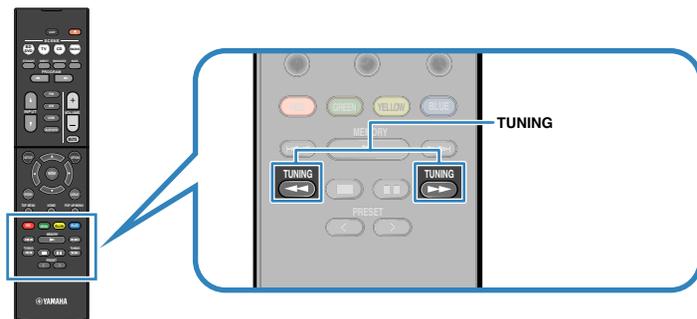
#### 1 FM キーまたは AM キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。



#### 2 TUNING キーを繰り返し押し、周波数を切り替える。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。



ラジオ放送受信中は本体前面ディスプレイに「TUNED」が点灯します。  
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

#### お知らせ

ラジオを聴きながら、外部機器の映像を楽しめます。詳しくは次をご覧ください。

- 「音声と同時に出力する映像を設定する」(54 ページ)

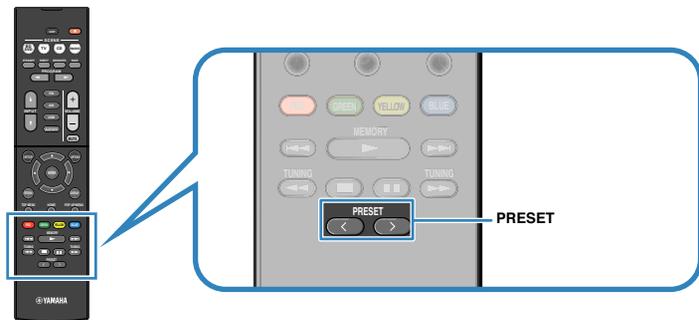
## 登録したラジオ局を選ぶ

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選択します。

### 1 FM キーまたは AM キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。

### 2 PRESET キーを押し、プリセット局を選ぶ。



#### お知らせ

ラジオ局が1つも登録されていない場合は、本体前面ディスプレイに「No Presets」と表示されます。

## FM ラジオ局を自動で登録する（オートプリセット）

信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。

#### お知らせ

- 最大 40 局のラジオ局を登録できます。
- AM ラジオ局は手動で登録してください。詳しくは次をご覧ください。  
-「ラジオ局を手動で登録する」(40 ページ)

### 1 FM キーまたは AM キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。

### 2 OPTION キーを押す。

### 3 カーソルキーで「プリセット」を選び、ENTER キーを押す。

登録するプリセット番号が表示されます。

#### お知らせ

登録を開始するプリセット番号を指定する場合は、カーソルキーまたは PRESET キーでプリセット番号を選択します。

### 4 ENTER キーを押す。

オートプリセットが開始され、オートプリセット中は「検索中」と表示されます。

#### お知らせ

オートプリセットを中止するには、RETURN キーを押します。

オートプリセットが終わると本体前面ディスプレイに「FINISH」と表示され、オプションメニューが自動的に終了します。



## ラジオ局を手動で登録する

ラジオ局を手動で選局し、プリセット番号に登録します。

### お知らせ

最大 40 局のラジオ局を登録できます。

#### 1 FM キーまたは AM キーを押す。

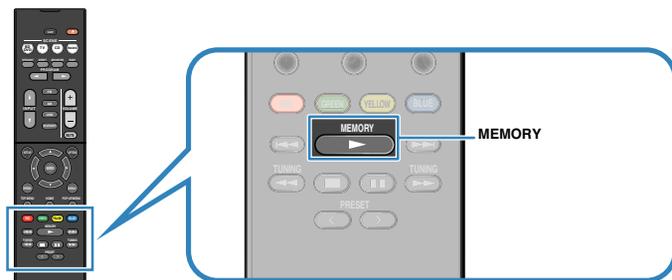
入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。

#### 2 TUNING キーを押し、周波数を切り替える。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。

#### 3 MEMORY キーを数秒間押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2 回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号にラジオ局が登録されます。



登録先のプリセット番号

### お知らせ

登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーを押してプリセット番号を選択し、もう一度 MEMORY キーを押します。



「Empty」（空き）または現在登録されている周波数

これで登録は完了です。

## ラジオ局の登録を解除する

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。

#### 1 FM キーまたは AM キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。

#### 2 OPTION キーを押す。

#### 3 カーソルキーで「プリセット」を選び、ENTER キーを押す。

#### 4 カーソルキーで「クリアプリセット」を選ぶ。

#### 5 カーソルキーで登録を解除するプリセット番号を選び、ENTER キーを押す。

登録が解除されると「消去しました」と表示され、次に登録されているプリセット番号が表示されます。

#### 6 別のプリセット番号の登録を解除するには、手順 5 を繰り返す。

#### 7 OPTION キーを押す。

これで登録の解除が完了です。

## Bluetooth®接続で再生する

### Bluetooth®機器を接続する（ペアリング）

Bluetooth 機器（スマートフォンなど）を初めて本機に接続する場合は、ペアリングが必要です。ペアリングとは Bluetooth 機器同士をあらかじめ登録することです。一度ペアリングすると、Bluetooth 接続を切断してもそれ以降は簡単に再接続できます。

#### お知らせ

Bluetooth 機能を利用するには、設定メニューの「Bluetooth」が「オン」である必要があります。詳しくは次をご覧ください。

- 「Bluetooth を設定する」（71 ページ）

#### 1 BLUETOOTH キーを押し、入力を「Bluetooth」に切り替える。

#### 2 本体前面パネルまたはリモコンの MEMORY キーを数秒間押す。

本体前面ディスプレイに「Searching...」と表示されます。

#### お知らせ

- オプションメニューからも操作できます。オプションメニューの「ペアリング」で ENTER キーを押してください。
- 他の Bluetooth 機器と接続している場合は、他の機器との接続を切断してからペアリングを実行してください。
- ペアリングを中止するには MEMORY キーを押します。

#### 3 お使いの Bluetooth 機器（スマートフォンなど）を操作して、Bluetooth 機能をオンにする。

#### 4 使用可能なデバイスのリストから本機「\*\*\*\*\*Yamaha」を選ぶ。 （\*\*\*\*\*は本機のモデル名）

ペアリングが完了し Bluetooth 機器と接続すると、本体前面ディスプレイに「Connected」と表示されます。また接続中は Bluetooth インジケータが点灯します。



#### お知らせ

- ペアリング中にパスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。
- ペアリングの操作は 30 秒以内に完了してください。
- Bluetooth 機器が見つからない場合は、本体前面ディスプレイに「Not found」と表示されます。

## Bluetooth®機器の音声を本機で再生する

Bluetooth 機器（スマートフォンなど）に保存した音楽ファイルなどを本機で再生します。



### お知らせ

- あらかじめ、Bluetooth 機器と本機をペアリングしてください。詳しくは次をご覧ください。
  - 「Bluetooth®機器を接続する（ペアリング）」(41 ページ)
- Bluetooth 機能を利用するには、Bluetooth 機器の Bluetooth 機能がオンになっている必要があります。
- Bluetooth 機能を利用するには、設定メニューの「Bluetooth」が「オン」である必要があります。詳しくは次をご覧ください。
  - 「Bluetooth を設定する」(71 ページ)
- 対応している Bluetooth 機器については、次をご覧ください。
  - 「対応している Bluetooth 機器」(89 ページ)

### 1 Bluetooth 機器を操作し、本機（本機の名称）を選ぶ。

本機の入力が自動的に「Bluetooth」に切り替わります。

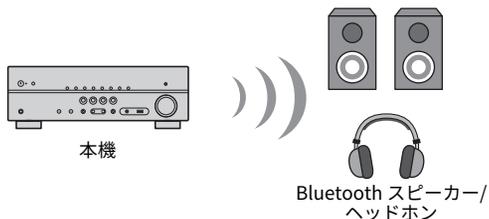
### 2 Bluetooth 機器を操作して音声を再生する。

#### お知らせ

- 接続済みの Bluetooth 機器を検出した場合は、手順 1 のあと自動的にその Bluetooth 機器に接続されます。別の Bluetooth 機器と接続するには、まず現在の Bluetooth 接続を切断します。
- 接続時に入力が自動的に切り替わらないようにするには、オプションメニューの「入力連動」で「オフ」を選択してください。
- 前回接続した Bluetooth 機器には、本機側の操作だけで接続できます。次のいずれかの操作をしてください。
  - 入力を「Bluetooth」に切り替え、ENTER キーを押す。
  - 入力を「Bluetooth」に切り替え、オプションメニューの「接続」で ENTER キーを押す。
- 接続できない場合は、再度ペアリングしてください。
- Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。
  - Bluetooth 機器で切断操作をする。
  - ENTER キーを押す。
  - 本機の入力を「Bluetooth」以外に切り替える。
  - オプションメニューの「切断」で ENTER キーを押す。
  - 設定メニューの「デバイス切断」で ENTER キーを押す。

## 本機の音声を Bluetooth®対応スピーカー/ヘッドホンで再生する

本機で再生している音声を Bluetooth スピーカー/ヘッドホンに出力します。



### お知らせ

- 本機に接続したスピーカーからも再生音が出ます。
- Bluetooth 機能の「音声送信」と「音声受信」は、同時に使用できません。

- 1 リモコンの入力選択キーで再生したい入力を選ぶ。**  
「Bluetooth」以外を選択してください。
- 2 SETUP キーを押す。**
- 3 カーソルキーで「Bluetooth 設定」を選び、ENTER キーを押す。**
- 4 カーソルキーで「音声送信機能」を選び、「オン」にする。**
- 5 カーソルキーで「デバイス検索」を選び、ENTER キーを押す。**  
Bluetooth 機器の一覧が表示されます。
- 6 本機と接続したい Bluetooth スピーカー/ヘッドホンをカーソルキーで選び、ENTER キーを押す。**  
接続が完了すると「完了しました」と表示され、Bluetooth スピーカー/ヘッドホンから音声が出力されます。

### お知らせ

接続したい Bluetooth 機器が一覧に表示されない場合は、Bluetooth 機器をペアリング状態にしてから、再度「デバイス検索」を実行してください。

## 7 ENTER キーを押す。

これで操作は完了です。

### お知らせ

Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。

- Bluetooth 機器で切断操作をする。
- 設定メニューの「音声送信機能」を「オフ」に設定する。

# USB 機器の曲を再生する

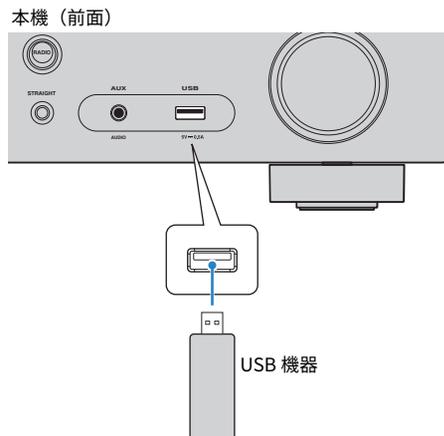
## USB 機器の曲を再生する

USB 機器に保存されている音楽ファイルなどを本機で再生します。

### お知らせ

- 対応している USB 機器については、次をご覧ください。  
-「対応している USB 機器」(89 ページ)
- 再生できるファイルフォーマットについては、次をご覧ください。  
-「対応しているフォーマット」(89 ページ)

### 1 USB 機器を USB 端子に接続する。



### お知らせ

- ファイル数が多いと読み込みに時間がかかる場合があります。この場合、本体前面ディスプレイに「Loading...」と表示されます。
- USB 機器は再生を停止させてから取り外してください。
- USB 機器は直接本機の USB 端子に接続してください。延長ケーブルなどは使わないでください。
- 本機がスタンバイ中は、USB 機器の充電はできません。

### 2 USB キーを押し、入力を「USB」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

### お知らせ

USB 機器側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。

### 3 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押す。

選択したコンテンツの再生が始まり、テレビに再生画面が表示されます。

### お知らせ

ブラウズ画面/再生画面/画面オフを切り替えるには、DISPLAY キーを押します。

### お知らせ

曲のリPEAT再生ができます。詳しくは次をご覧ください。

- 「リPEAT再生を設定する」(54 ページ)

## 便利な再生機能

### SCENE 機能

#### ■ 入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について (SCENE キー)

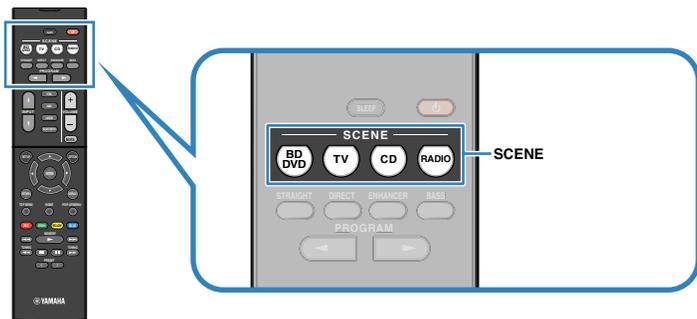
シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した次の内容をワンタッチで切り替えられます。

- 入力
- 音場プログラム
- ミュージックエンハンサー
- シーン連動

シーン機能はリモコンの SCENE キーに登録しており、登録内容は変更もできません。

#### ■ SCENE キーに登録したシーンを呼び出す

SCENE キーを押して、登録しているシーンをワンタッチで呼び出します。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。



各 SCENE キーの登録内容 (初期値) は次のとおりです。

SCENE キー	BD DVD	TV	CD	RADIO
入力	HDMI1	AUDIO1	AUDIO2	TUNER
音場プログラム	MOVIE (Sci-Fi)	STRAIGHT	STRAIGHT	STEREO (5ch Stereo)
ミュージックエンハンサー	オフ	オン	オフ	オン
シーン連動	オン	オン	オフ	オフ

#### お知らせ

- 音場プログラム、ミュージックエンハンサーについて詳しくは次をご覧ください。
  - 「お好みのサウンドを選ぶ」(31 ページ)
  - 「圧縮フォーマットを厚みのある音で楽しむ (ミュージックエンハンサー)」(34 ページ)
- シーン連動を使うと、シーン選択時に HDMI で本機に接続したテレビの電源を入れたり、外部機器の再生を開始したりできます。詳しくは次をご覧ください。
  - 「シーン連動を設定する」(64 ページ)

## ■ SCENE キーの登録内容を変更する

各 SCENE キーの登録内容を初期値から変更できます。

### お知らせ

登録したい入力の映像や音声を視聴しながら、登録することをおすすめします。

#### 1 本機を SCENE キーに登録したい状態にする。

- 登録したい入力を選ぶ。
- 登録したい音場プログラムを選ぶ。または、音場効果をかけずに再生する。
- ミュージックエンハンサーを設定する。
- シーン連動を設定する。

#### 2 本体前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先とする SCENE キーを押し続ける。



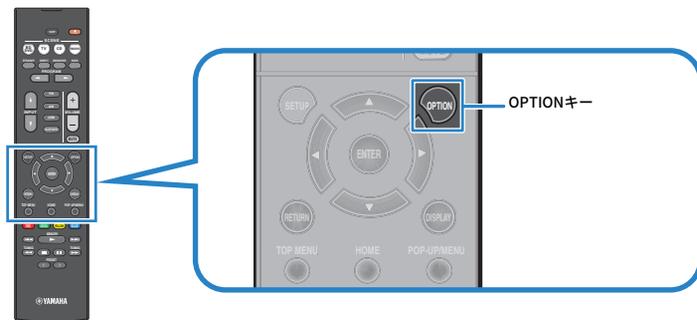
これで登録は完了です。

## 再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）

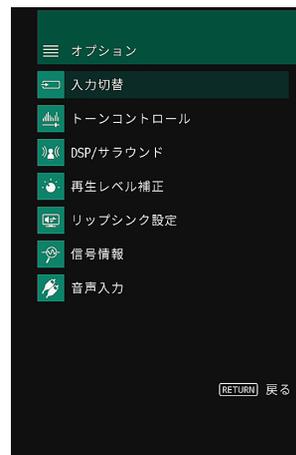
### オプションメニューの基本操作

オプションメニューの基本的な操作方法を説明します。オプションメニューでは、再生中のソースにあわせて、本機の再生関連の機能を設定します。

#### 1 リモコンの OPTION キーを押す。



本体前面ディスプレイ



テレビ画面

#### 2 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

#### 3 カーソルキーで設定値を選ぶ。

#### 4 OPTION キーを押す。

これで設定は完了です。

#### お知らせ

各メニューの初期値は、次をご覧ください。

- 「オプションメニュー初期値一覧」(98 ページ)

## オプションメニュー一覧

### お知らせ

- 選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。
- カッコ内の表記は、本体前面ディスプレイの表示です。

項目	説明	ページ		
入力切替 (Input Select)	入力を切り替えます。	48		
トーンコントロール (Tone Control)	音声の高音域音量と低音域音量を、それぞれ調整します。	49		
DSP/サラウンド (DSP/Surround)	プログラム (PRG)	音場プログラムやステレオ再生を選択します。	49	
	サラウンドデコード (SrDec)	プログラムで「サラウンドデコード」を選択時に、使用するデコーダーを選択します。	51	
	エフェクト量の加減 (DSP Level)	音場プログラムのエフェクト量を調節します。	51	
	アダプティブ DRC (A.DRC)	音量に連動して、ダイナミックレンジ (最大音量と最小音量の差) を自動的に調節するか設定します。	51	
	多重モノラル音声 (Dual Mono)	多重音声入力時の出力音声を設定します。	52	
	エンハンサー (Enhancer)	ミュージックエンハンサーを有効/無効にします。	52	
	再生レベル補正 (Volume Trim)	入力レベル補正 (In.Trim)	入力間の音量差を補正します。	52
		サブウーファールレベル補正 (SW.Trim)	再生中にサブウーファールの音量を微調整します。	52
	リップシンク設定 (Lipsync)	設定メニューの「リップシンク」で設定した補正値を有効/無効にします。	53	
	信号情報 (Signal Info.)	映像/音声信号に関する情報を表示します。	53	
音声入力 (Audio In)	選択した入力の映像とほかの端子の音声を組み合わせます。	53		

項目	説明	ページ	
映像選択 (Video Out)	選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。	54	
FM モード (FM Mode)	FM ラジオの受信方法 (ステレオ/モノラル) を選択します。	54	
プリセット (Preset)	オートプリセット (AUTO)	信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。	39
	クリアプリセット (CLEAR)	プリセット番号に登録されているラジオ局 (プリセット局) の登録を解除します。	40
リピート (Repeat)	曲のリピート再生を設定します。	54	
ペアリング (Pairing)	本機と Bluetooth 機器をペアリングします。	41	
接続 (Connect)	本機と Bluetooth 機器を接続/切断します。	42	
切断 (Disconnect)			
入力連動 (Input Interlock)	Bluetooth 接続時、自動的に入力を「Bluetooth」に切り替えるかどうかを選択します。	42	

## 入力を切り替える

入力を切り替えます。カーソルキーで選択し、ENTER キーを押すと選択中の入りに切り替わります。

### オプションメニュー

「入力切替」

## 音声のトーンを調整する

出力される音声の高音域と低音域の音量を、それぞれ調整します。

### オプションメニュー

「トーンコントロール」

### 選択項目

高音、低音

### 設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

### お知らせ

- 「高音」と「低音」の両方が 0.0dB の場合は、「バイパス」と表示されます。
- 本体前面のキーでも調整できます。TONE CONTROL キーで「Treble」または「Bass」を選び、PROGRAM キーで調整してください。
- 極端な設定にすると、音のつながりが悪くなる場合があります。

## DSP/サラウンドの設定を変更する

### ■ 音場プログラムを選択する

音場プログラムやステレオ再生を選択します。

### オプションメニュー

「DSP/サラウンド」>「プログラム」

### お知らせ

カッコ内の表記は、本体前面ディスプレイの表示です。

### ■ MUSIC

ミュンヘン (Hall in Munich)	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに広がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
ウィーン (Hall in Vienna)	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
チェンバー (Chamber)	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。
セラークラブ (Cellar Club)	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前のような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
ロキシーシアター (The Roxy Theatre)	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
ボトムライン (The Bottom Line)	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。

## ■ MOVIE

### スポーツ (Sports)

スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に広がり臨場感を体感できます。

### アクションゲーム (Action Game)

カーレースや格闘ゲーム、シューティングゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、ゲームの中にいるような感覚が体感できます。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。

### ロールプレイングゲーム (Roleplaying Game)

RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。BGM や効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。

### ミュージックビデオ (Music Video)

ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。

### スタンダード (Standard)

マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。

### スペクタクル (Spectacle)

壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微かな効果音から迫力の低音まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。

### サイファイ (Sci-Fi)

最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各空間を鮮やかに再現します。

### アドベンチャー (Adventure)

アクション&アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の広がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。

### ドラマ (Drama)

シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM を柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いていても疲れません。

### モノムービー (Mono Movie)

往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気を楽しめます。広がりや適度な残響が付加され、奥行きのある心地よい空間が再現されます。

## ■ STEREO

### 2ch ステレオ (2ch Stereo)

ステレオ前方からのステレオ音声を楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、2チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます(シネマ DSP は使用しません)。

### 5ch ステレオ (5ch Stereo)

ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大5つのスピーカーから音が出され、ホームパーティーの BGM に最適です。

## ■ 音場効果なし

### サラウンドデコード (Sur.Decode)

サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに2チャンネルソースをマルチチャンネルで再生します。

### ストレート (Straight)

ストレートデコードを使うと、CDなどの2チャンネルソースをフロントスピーカーからステレオ音声で再生できます。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

## お知らせ

音場プログラムは PROGRAM キーで選択できます。

## ■ サラウンドデコードで使用するデコーダーを選択する

オプションメニューの「プログラム」で「サラウンドデコード」を選択した場合、および PROGRAM キーを押して「サラウンドデコード」を選択した場合に使用するデコーダーを選択します。

### お知らせ

オプションメニューの「プログラム」については、次をご覧ください。

- 「音場プログラムを選択する」(49 ページ)

### オプションメニュー

「DSP/サラウンド」 > 「サラウンドデコード」

### 設定値

DPL Movie	Dolby Pro Logic II デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
DPL Music	Dolby Pro Logic II デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。
DPL Game	Dolby Pro Logic II デコーダーです。ゲームに適しています。
Neo:6 Cinema	DTS Neo:6 デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
Neo:6 Music	DTS Neo:6 デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。

### お知らせ

- 各サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。
  - 「音声デコードフォーマットに関する用語」(86 ページ)
- 各サラウンドデコーダーに関する設定は、設定メニューの「DSP パラメーター」で変更できます。詳しくは次をご覧ください。
  - 「パノラマを設定する」(65 ページ)
  - 「センターの広がりを調節する」(65 ページ)
  - 「ディメンションを調節する」(65 ページ)
  - 「センター定位の強さ(広がり感)を調節する」(65 ページ)

## ■ 音場プログラムの効果量を調節する

音場プログラムのエフェクト量(音場効果のかかり具合)を調整します。

### オプションメニュー

「DSP/サラウンド」 > 「エフェクト量の加減」

### 設定値

-6dB ~ +3dB (1dB 単位)

## ■ ダイナミックレンジを自動的に調節する

音量に連動して、ダイナミックレンジ(最大音量と最小音量の差)を自動的に調節するか設定します。「オン」にすると、夜間に再生するときなど小音量でも聴きやすくなります。

### オプションメニュー

「DSP/サラウンド」 > 「アダプティブ DRC」

### 設定値

オフ	ダイナミックレンジを自動的に調節しない。
オン	ダイナミックレンジを自動的に調節する。

## ■ モノラル多重音声入力時の出力音声を設定する

地上デジタル/BS デジタル放送など、モノラル多重音声入力時の出力音声を設定します。

### オプションメニュー

「DSP/サラウンド」 > 「多重モノラル音声」

### 設定値

すべて	主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。 PCM 信号の左右振り分けは、デジタル放送チューナーの設定により異なります。
主音声	主音声をフロントスピーカーから出力する。
副音声	副音声をフロントスピーカーから出力する。

## ■ ミュージックエンハンサーを設定する

ミュージックエンハンサーを使用するか設定します。

### オプションメニュー

「DSP/サラウンド」 > 「エンハンサー」

### 設定値

オフ	ミュージックエンハンサーを無効にする。
オン	ミュージックエンハンサーを有効にする。

### お知らせ

- 入力ごとに個別に設定できます。
- ミュージックエンハンサーはリモコンの ENHANCER キーでも設定できます。
- ミュージックエンハンサーについては、次をご覧ください。  
-「圧縮フォーマットを厚みのある音で楽しむ (ミュージックエンハンサー)」  
(34 ページ)

## 再生時の音量差を調整する

### ■ 入力間の音量差を調整する

入力間の音量差を補正します。入力切り替え時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って微調整してください。

### オプションメニュー

「再生レベル補正」 > 「入力レベル補正」

### 設定値

-6.0dB~+6.0dB (0.5dB 単位)

### お知らせ

入力ごとに個別に設定できます。

### ■ サブウーファーの音量を調整する

サブウーファーの音量を微調整します。

### オプションメニュー

「再生レベル補正」 > 「サブウーファーレベル補正」

### 設定値

-6.0dB~+6.0dB (0.5dB 単位)

## リップシンク補正を設定する

設定メニューの「リップシンク」で設定した補正値を使用するか設定します。

### お知らせ

設定メニューの「リップシンク」については、次をご覧ください。

- ・「リップシンクの調整方法を設定する」(66 ページ)

### オプションメニュー

「リップシンク設定」

### 設定値

オフ	リップシンクによる補正を無効にする。
オン	リップシンクによる補正を有効にする。

### お知らせ

入力ごとに個別に設定できます。

## 映像/音声信号情報を確認する

映像/音声信号に関する情報を表示します。

### オプションメニュー

「信号情報」

信号方式	入力信号の音声フォーマット
チャンネル	入力信号のチャンネル数 (フロント/サラウンド/LFE) 「3/2/0.1」と表示されている場合、フロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE 0.1ch
サンプリング	入力デジタル信号の 1 秒あたりのサンプル数
映像入力	入力中のデジタル映像信号の種類と解像度
映像出力	出力中のデジタル映像信号の種類と解像度

### お知らせ

本体前面ディスプレイの表示項目を切り替えるには、カーソルキーを押します。

## 映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を設定する

映像入力端子と音声入力端子の組み合わせを変更します。選択した入力の映像と他の端子の音声を組み合わせて再生できます。次の場合などにご利用ください。

- ・映像は HDMI、音声は HDMI 以外で出力する AV 機器を本機に接続する。

### オプションメニュー

「音声入力」

### 設定可能な映像入力

HDMI1～4、AV1～3

### 設定値

AV1～3、AUDIO1～2

### 本機の映像/音声入力端子

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子	
映像	音声	映像	音声
HDMI	光デジタル	HDMI1～4	AUDIO1
	同軸デジタル	HDMI1～4	AUDIO2、AV1
	アナログステレオ	HDMI1～4	AV2～3
コンポジットビデオ	光デジタル	AV1～3	AUDIO1

## 設定例

例として、映像は AV2 (VIDEO)、音声は AUDIO1 (OPTICAL) 端子に接続した場合の設定手順を説明します。

- 1 INPUT キーで入力を「AV2」（映像を入力する端子）に切り替える。
- 2 OPTION キーを押す。
- 3 カーソルキーで「音声入力」を選び、ENTER キーを押す。
- 4 カーソルキーで「AUDIO1」（音声を入力する端子）を選ぶ。
- 5 OPTION キーを押す。

これで設定は完了です。

## 音声と同時に出力する映像を設定する

選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。この設定を使うと、たとえば、ラジオを聴きながら他の入力の映像を表示できます。

### オプションメニュー

「映像選択」

### 設定可能な音声入力

AUDIO1～2、TUNER、USB、Bluetooth、AUX

### 設定値

オフ	映像を表示しない。
HDMI1～4、AV1～3	選択した入力の映像を表示する。

## FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する

FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を選択します。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル受信に切り替えると改善される場合があります。

### オプションメニュー

「FM モード」

### 設定値

ステレオ	FM ラジオをステレオで受信する。
モノラル	FM ラジオをモノラルで受信する。

## リピート再生を設定する

リピート再生を設定します。

### オプションメニュー

「リピート」

### 設定値

オフ	リピート再生を無効にする。
1 曲	現在の曲を繰り返し再生する。
すべて	アルバム（フォルダー）内の曲を繰り返し再生する。
ランダム	アルバム（フォルダー）内の曲をランダムに再生する。

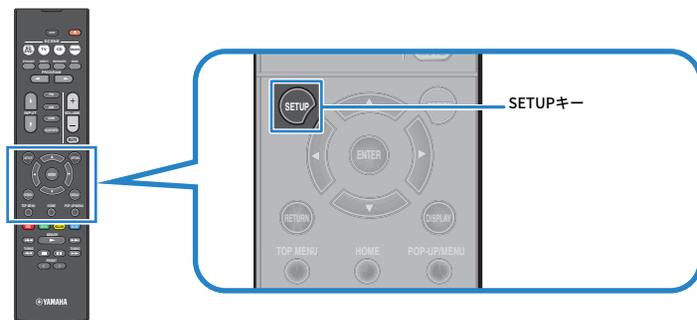
# 設定する

## 機能設定を変更する（設定メニュー）

### 設定メニューの基本操作

設定メニューの基本的な操作方法を説明します。設定メニューでは、本機の詳細機能を設定します。

#### 1 リモコンの SETUP キーを押す。



#### 2 カーソルキーでメニューを選び、ENTER キーを押す。



#### 3 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

#### 4 カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。

#### 5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

#### お知らせ

各メニューの初期値は、次をご覧ください。

- 「設定メニュー初期値一覧」(98 ページ)

## 設定メニュー一覧

### お知らせ

カッコ内の表記は、本体前面ディスプレイの表示です。

メニュー	項目	説明	ページ
スピーカー設定 (Speaker Setup)	構成 (Config)		
	パワーアンプ割り当て (Assign)	使用するスピーカーシステムを選択します。	58
	サブウーファー (Subwoofer)	サブウーファーの有無を設定します。	58
	フロント (Front)	フロントスピーカーのサイズを選択します。	58
	センター (Center)	センタースピーカーの有無やサイズを選択します。	59
	サラウンド (Sur. LR)	サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。	59
	低音クロスオーバー (Crossover)	「小」に設定したスピーカーが出力可能な低音域成分の下限周波数を設定します。	59
	サブウーファー位相 (SWFR Phase)	サブウーファーの位相を設定します。	60
	エクストラベース (Extra Bass)	エクストラベースを有効/無効にします。	60
	バーチャルシネマフロント (V.C.FRONT)	バーチャルシネマフロントを有効/無効にします。	60
	距離 (Distance)	スピーカーの距離を個別に設定します。	60
	音量 (Level)	スピーカーの音量を個別に設定します。	61
	イコライザー (Equalizer)	イコライザーを使って音色を調節します。	61
テストトーン (Test Tone)	テストトーン出力を有効/無効にします。	61	
HDMI 設定 (HDMI Setup)	HDMI コントロール (Control)	HDMI コントロールを有効/無効にします。	62
	音声出力 (Audio Out)	HDMI の音声 TV スピーカーから出力するかどうかを設定します。	62
	スタンバイスルー (Through)	本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された映像/音声をテレビに出力するかどうかを設定します。	62
	4K アップスケーリング (4K Upscale)	HDMI 端子へ入力された映像信号を 4K アップスケーリングするかどうかを設定します。	63
	HDCP バージョン (HDCP Version)	HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定します。	63
	TV 音声入力 (TVAudio)	テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を設定します。	63
	スタンバイ連動 (Sync)	HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。	63
	ARC (ARC)	ARC を有効/無効にします。	64
	シーン連動 (SCENE)	シーン連動を有効/無効にします。	64

メニュー	項目	説明	ページ	
音声設定 (Sound Setup)	DSP パラメーター (DSP Parameter)	パノラマ (Panorama)	フロント音場の広がり感を調節します。	65
		センターの広がり (C.Width)	センターチャンネル音声の左右への広がり感を調節します。	65
		ディメンション (Dimension)	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。	65
		センターイメージ (C.Image)	フロント音場のセンター定位の強さ (広がり感) を調節します。	65
		モノラルミックス (Mono Mix)	モノラル音声出力を有効/無効にします。	66
	リップシンク (Lipsync)	自動/手動選択 (Select)	映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。	66
		調整 (Adjustment)	映像と音声のずれを手動で調整します。	66
	ダイアログ (Dialogue)	セリフ音量調整 (Level)	中央に定位する音 (セリフなど) の音量を調整します。	66
	音量 (Volume)	音量表示 (Scale)	音量の表示方式を切り替えます。	67
		ダイナミックレンジ (DRC)	Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	67
		音量の上限 (MaxVol)	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	67
		音量の初期値 (IniVol)	電源を入れたときの音量を設定します。	67
	エコ設定 (ECO Setup)	自動スタンバイ (AutoPowerStdby)	本機の電源を自動的にスタンバイにするまでの時間を設定します。	68
エコモード (ECO Mode)		エコモード (消費電力の節約) を有効/無効にします。	68	
ファンクション設定 (Func. Setup)	入力名変更 (Input Rename)	本体前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、入力の名称を変更します。	69	
	入カスキップ (Input Skip)	INPUT キーを操作した時にスキップする入力を設定します。	70	
	明るさ (Dimmer)	本体前面ディスプレイの明るさを調節します。	70	
	設定保護 (Memory Guard)	設定を保護して、変更できないようにします。	70	
	リモコンカラーキー (Rem. ColorKey)	リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE のキーに本機の機能を設定します。	71	
Bluetooth 設定 (Bluetooth)	Bluetooth (Bluetooth)	Bluetooth 機能を有効/無効にします。	71	
	音声受信	デバイス切断 (Disconnect)	Bluetooth 機器 (スマートフォンなど) と本機との Bluetooth 接続を切断します。	42
		Bluetooth スタンバイ (Standby)	Bluetooth 機器から本機の電源を入れる機能 (Bluetooth スタンバイ) を有効にするかどうかを選択します。	71
	音声送信	音声送信機能 (Transmit)	Bluetooth の音声送信機能を有効/無効にします。	43
		デバイス検索 (Device Search)	本機の Bluetooth 音声送信機能が有効の場合、接続できる Bluetooth 機器 (スピーカー/ヘッドホンなど) を検索します。	43
言語設定 (OSD Language)		テレビ画面の表示言語を設定します。	72	

## スピーカー設定

### スピーカーシステムの構成を設定する

接続したスピーカーシステムに合わせて設定値を選択します。

#### 設定メニュー

「スピーカー設定」 > 「構成」 > 「パワーアンプ割り当て」

#### 設定値

サラウンド	標準的なスピーカーシステムを使う場合（バイアンプ接続を使わない場合）に選択する。
バイアンプ	フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合に選択する。

#### お知らせ

各スピーカーシステムの接続については、次をご覧ください。

- 「スピーカーシステムと接続するスピーカー」 (15 ページ)
- 「バイアンプ接続する」 (20 ページ)

### サブウーファースの有無を設定する

サブウーファースの接続状況に合わせて設定値を選択します。

#### 設定メニュー

「スピーカー設定」 > 「構成」 > 「サブウーファース」

#### 設定値

使用する	サブウーファースを接続している場合に選択する。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声サブウーファースから出力されます。
使用しない	サブウーファースを接続しない場合に選択する。 低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。

### フロントスピーカーのサイズを設定する

接続したフロントスピーカーのサイズに合わせて設定値を選択します。

#### 設定メニュー

「スピーカー設定」 > 「構成」 > 「フロント」

#### 設定値

小	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。 フロントチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファースから出力されます。
大	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。 フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。

#### お知らせ

- 使用するスピーカーのウーファース部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安に設定してください。
- 設定メニューの「サブウーファース」が「使用しない」の場合は、自動的に「大」が選択されます。設定メニューの「サブウーファース」については、次をご覧ください。  
- 「サブウーファースの有無を設定する」 (58 ページ)

## センタースピーカーの有無やサイズを設定する

センタースピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

### 設定メニュー

「スピーカー設定」 > 「構成」 > 「センター」

### 設定値

小	センタースピーカーが小さい場合に選択する。 センターチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	センタースピーカーが大きい場合に選択する。 センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
無	センタースピーカーを接続しない場合に選択する。 センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

### お知らせ

サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安にしてください。

## サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する

サラウンドスピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

### 設定メニュー

「スピーカー設定」 > 「構成」 > 「サラウンド」

### 設定値

小	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
無	サラウンドスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。この場合、バーチャルシネマ DSP が機能します。

### お知らせ

- サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安にしてください。
- バーチャルシネマ DSP については、次をご覧ください。  
-「サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）」  
(32 ページ)

## 低音クロスオーバーの周波数を設定する

スピーカーサイズを「小」に設定したスピーカーが出力できる低音域の周波数を、設定値から選択します。

設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されません。

### 設定メニュー

「スピーカー設定」 > 「構成」 > 「低音クロスオーバー」

### 設定値

40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

### お知らせ

サブウーファー側で音量やクロスオーバー周波数を調節できる場合は、音量を半分に、クロスオーバー周波数を最大にしてください。

## サブウーファアの位相を設定する

接続したサブウーファアの位相に合わせて設定値を選択します。視聴位置で低音が弱く感じるときに、位相を変更すると改善される場合があります。

### 設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サブウーファア位相」

### 設定値

正相	サブウーファアの位相を反転しない。
逆相	サブウーファアの位相を反転する。

### お知らせ

設定メニューの「サブウーファア」が「使用しない」の場合は設定できません。詳しくは次をご覧ください。

- 「サブウーファアの有無を設定する」(58 ページ)

## エクストラベースを設定する

低音を増強する場合にエクストラベースを設定します。「オン」にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファアの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

### 設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「エクストラベース」

### 設定値

オフ	エクストラベースを無効にする。
オン	エクストラベースを有効にする。

### お知らせ

リモコンの BASS キーでも、エクストラベースを有効/無効にできます。

## バーチャルシネマフロントを設定する

バーチャルシネマフロントを使用するか設定します。

### お知らせ

バーチャルシネマフロントについて、詳しくは次をご覧ください。

- 「バーチャルシネマフロントで使用する」(19 ページ)

### 設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「バーチャルシネマフロント」

### 設定値

オフ	バーチャルシネマフロントを無効にする。
オン	バーチャルシネマフロントを有効にする。

### お知らせ

設定メニューの「サラウンド」が「無」の場合は設定できません。詳しくは次をご覧ください。

- 「サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する」(59 ページ)

## スピーカーの距離を個別に設定する

各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように設定値を調節します。

### 設定メニュー

「スピーカー設定」>「距離」

### 選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファア

### 設定値

0.30m～24.00m (1.0ft～80.0ft)、0.05m (0.2ft) 単位

### お知らせ

「単位」で「メートル」、「フィート」を切り替えられます。

## スピーカーの音量を個別に調整する

各スピーカーの音が視聴位置で同じに聴こえるように設定値を調節します。

### 設定メニュー

「スピーカー設定」 > 「音量」

### 選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

### 設定値

-10.0dB~+10.0dB (0.5dB 単位)

### お知らせ

テストトーンを出力して実際の効果を確認しながら調整できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「テストトーンを出力する」(61 ページ)

## イコライザーを設定する

音色を調節する場合にイコライザーを設定します。

### 設定メニュー

「スピーカー設定」 > 「イコライザー」 > 「イコライザー選択」

### 設定値

PEQ	YPAO の自動測定で得たパラメトリックイコライザーの値を適用する。
GEQ	イコライザーの値を手動で調節する。
オフ	イコライザーを使用しない。

## GEQ 設定時

1 カーソルキーで「チャンネル」を選び、調節するスピーカーチャンネルを選ぶ。

2 カーソルキーで周波数を選び、レベルの強さを調節する。

### 設定値

-6.0dB~+6.0dB (0.5dB 単位)

3 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

### お知らせ

- テストトーンを出力して実際の効果を確認しながら調整できます。詳しくは次をご覧ください。
  - 「テストトーンを出力する」(61 ページ)
- 設定値「PEQ」は YPAO の自動測定を行った場合のみ選択できます。YPAO の自動測定については、次をご覧ください。
  - 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(27 ページ)

## テストトーンを出力する

実際の効果を確認しながらスピーカーの音量やイコライザーを調節する場合に、テストトーンを出力します。

### 設定メニュー

「スピーカー設定」 > 「テストトーン」

### 設定値

オフ	テストトーンを出力しない。
オン	テストトーンを出力する。

## HDMI 設定

### HDMI コントロールを設定する

HDMI コントロール対応のテレビや AV 機器を、本機と連動させるか設定します。

#### 設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「HDMI コントロール」

#### 設定値

オフ	HDMI コントロールを無効にする。
オン	HDMI コントロールを有効にする。 「TV 音声入力」、「スタンバイ連動」、「ARC」、「シーン連動」の設定が適用されます。

#### お知らせ

設定値を「オン」に設定しただけでは、HDMI コントロールは機能しません。HDMI コントロール対応のテレビや AV 機器を本機に接続後、連動設定が必要です。詳しくは次をご覧ください。

- 「HDMI コントロールと連動機能」(90 ページ)

### HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オフ」を選択した場合に、音声を HDMI OUT 端子に接続したテレビのスピーカーから出力するか設定します。

#### 設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「音声出力」

#### 設定値

オフ	テレビから出力しない。
オン	テレビから出力する。

### HDMI スタンバイスルーを設定する

本機がスタンバイ時に、HDMI 端子へ入力された音声/映像を HDMI OUT 端子に接続したテレビから出力するか設定します。

#### お知らせ

スタンバイスルー動作中は、音声/映像を入力する HDMI 端子 (HDMI1~4) をリモコンで切り替えられます。切り替え時は、本体前面のスタンバイ表示が点滅します。

#### 設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「スタンバイスルー」

#### 設定値

オフ	テレビに出力しない。
オン	テレビに出力する。「オフ」または「自動」設定時よりも電力を消費します。
自動	接続している機器の状態により、出力するか自動的に設定する。

#### お知らせ

- 設定メニューの「HDMI コントロール」が「オン」の場合は、HDMI スタンバイスルーの「オフ」を選択できません。
- 設定メニューの「HDMI コントロール」について、詳しくは次をご覧ください。  
-「HDMI コントロールを設定する」(62 ページ)

## HDMI 映像信号の 4K アップスケーリングを設定する

HDMI 端子へ入力された映像信号を 4K アップスケーリングするか設定します。「オン」を選択すると、1080p コンテンツを 4K 解像度で表示します。

### 設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「4K アップスケーリング」

### 設定値

オフ	4K アップスケーリングしない。
オン	4K アップスケーリングする。

## HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定する

4K 映像を視聴するために、HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定します。

### 設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「HDCP バージョン」

### 対象の入力

HDMI1～4

### 設定値

自動	コンテンツに応じて HDCP のバージョンを自動設定する。
1.4	HDCP をバージョン 1.4 に固定する。

## テレビからの音声を入力する端子を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を設定します。テレビ側の入力設定を内蔵チューナー（テレビ）に切り替えると、本機の音声入力が自動的にテレビ音声に切り替わります。

### 設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「TV 音声入力」

### 設定値

AV1～3、AUDIO1～2

### お知らせ

ARC 使用時は、ここで選択した入力がテレビ音声入力用として使用されます。

## 本機とテレビのスタンバイ連動を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるか設定します。

### 設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「スタンバイ連動」

### 設定値

オフ	テレビと本機の電源スタンバイを連動させない。
オン	テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。
自動	本機がテレビ音声入力中または HDMI 信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。

## ARC を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、テレビの音声を本機に接続したスピーカーから出力するか設定します。

### 設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「ARC」

### 設定値

オフ	ARC を無効にする。
オン	ARC を有効にする。

### お知らせ

通常は設定値を「オン」（初期値）から変更する必要はありません。本機が非対応の音声信号がテレビから入力されてノイズが発生する場合のみ、「オフ」に設定してください。この場合は、テレビ側のスピーカーをお使いください。

## シーン連動を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、SCENE キーのシーン連動を設定します。シーン連動を使うと、シーン選択時に本機に接続した HDMI コントロール対応の外部機器が次のように連動します。

- テレビの電源「入」、入力の切り替え
- AV 機器の再生開始

### 設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「シーン連動」

### 選択項目（SCENE キー）

BD/DVD、TV、CD、RADIO

オフ	選択した SCENE キーのシーン連動を無効にする。
オン	選択した SCENE キーのシーン連動を有効にする。

### お知らせ

機器の相性などにより、シーン連動が正しく機能しない場合があります。

### パノラマを設定する

パノラマ（フロント音場の広がり感）を設定します。サラウンドデコーダーとして「DPL Music」を選択した場合に、フロントチャンネル音声を左右に大きく回り込ませて、サラウンド音場とつながるような広がり感が増加します。

#### 設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「パノラマ」

#### 設定値

オフ	パノラマを無効にする。
オン	パノラマを有効にする。

#### お知らせ

サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。

- 「音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）」  
(33 ページ)

### センターの広がりを調節する

サラウンドデコーダーとして「DPL Music」を選択した場合に、センターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。値を大きくすると左右に広がり、小さくするとセンターに近づきます。

#### 設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「センターの広がり」

#### 設定値

0～7

#### お知らせ

サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。

- 「音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）」  
(33 ページ)

### ディメンションを調節する

サラウンドデコーダーとして「DPL Music」を選択した場合に、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。値を大きくするとフロント音場が強くなり、小さくするとサラウンド音場が強くなります。

#### 設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「ディメンション」

#### 設定値

-3～+3

#### お知らせ

サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。

- 「音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）」  
(33 ページ)

### センター定位の強さ（広がり感）を調節する

サラウンドデコーダーとして「Neo:6 Music」を選択した場合に、フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増加します。

#### 設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「センターイメージ」

#### 設定値

0.0～1.0

#### お知らせ

サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。

- 「音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）」  
(33 ページ)

## モノラルミックスを設定する

モノラル音声出力を有効/無効にします。この機能は、音場プログラムで「5chステレオ」を選択した場合に機能します。

### 設定メニュー

「音声設定」 > 「DSP パラメーター」 > 「モノラルミックス」

### 設定値

オフ	モノラル音声出力を無効にする。
オン	モノラル音声出力を有効にする。

## リップシンクの調整方法を設定する

映像と音声の出力タイミングのずれを補正（リップシンク）する方法を設定します。

### 設定メニュー

「音声設定」 > 「リップシンク」 > 「自動/手動選択」

### 設定値

手動補正	映像と音声のずれを手動で調整する。 「調整」で入力した値が補正値として適用されます。
自動補正	映像と音声のずれを自動で調整する。自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合のみ有効です。 必要に応じて、「調整」で補正時間を微調整できます。

### お知らせ

オプションメニューの「リップシンク設定」で、入力ごとに補正値を適応するか設定できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「リップシンク補正を設定する」(53 ページ)

## リップシンクの補正値を調整する

映像と音声の出力タイミングのずれの補正値（リップシンク）を調整します。設定メニューの「自動/手動選択」で「自動補正」に設定したときは、自動補正された値をさらに微調整できます。

### 設定メニュー

「音声設定」 > 「リップシンク」 > 「調整」

### 設定値

0ms～500ms（1ms 単位）

## セリフの音量を調整する

セリフが聴こえにくい場合に、セリフの音量を調整します。

### 設定メニュー

「音声設定」 > 「ダイアログ」 > 「セリフ音量調整」

### 設定値

0～3（値が大きいほど強調）

## 音量表示の単位を設定する

音量表示の単位を設定します。

### 設定メニュー

「音声設定」 > 「音量」 > 「音量表示」

### 設定値

dB	dB（デシベル）単位で表示する。
0-97	数値（0.5～97.0）で表示する。

## ダイナミックレンジの調節方法を設定する

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）の調節方法を設定します。

### 設定メニュー

「音声設定」 > 「音量」 > 「ダイナミックレンジ」

### 設定値

最大	入力信号を補正せずに再生する。
標準	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
	夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。
最小/自動	Dolby TrueHD 再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

## 音量の上限を設定する

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。

### 設定メニュー

「音声設定」 > 「音量」 > 「音量の上限」

### 設定値

-60.0dB～+15.0dB（5.0dB 単位）、+16.5dB [20.0～95.0（5.0 単位）、97.0]

## 電源を入れたときの音量を設定する

電源を入れたときの音量を設定します。

### 設定メニュー

「音声設定」 > 「音量」 > 「音量の初期値」

### 設定値

オフ	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
ミュート	消音を適用する。
-80.0dB ～ +16.5dB (0.5dB 単位)	指定した音量を適用する。
[0.5 ～ 97.0 (0.5 単位)]	(「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効)

## エコ設定

### 自動スタンバイまでの時間を設定する

本機の電源を自動的にスタンバイにするまでの時間を設定します。

#### 設定メニュー

「エコ設定」 > 「自動スタンバイ」

#### 設定値

オフ	電源を自動的にスタンバイにしない。
5分、20分	本機を指定時間操作しなかったとき、かつ本機が指定時間入力信号を検知しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。
2時間、4時間、8時間、12時間	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。

#### お知らせ

スタンバイになる直前、本体前面ディスプレイに「AutoPowerStdby」と、スタンバイに切り替わるまでの秒数が表示されます。

### エコモードを設定する

消費電力を低減する場合にエコモードを設定します。「オン」に設定した場合は、ENTERキーを押して必ず本機を再起動してください。新しい設定は、再起動後に反映されます。

#### 設定メニュー

「エコ設定」 > 「エコモード」

#### 設定値

オフ	エコモードを無効にする。
オン	エコモードを有効にする。

#### お知らせ

- 「オン」に設定時は、本体前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。
- 大きな音量で再生する場合は「オフ」に設定してください。

## ファンクション設定

### 本体前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を、接続した外部機器に応じて、本機が自動的に名称を生成します。

#### 設定メニュー

「ファンクション設定」 > 「入力名変更」

#### 対象の入力

HDMI1～4、AUDIO1～2、AV1～3

- 1 カーソルキーで名称を変更する入力を選ぶ。
- 2 カーソルキーで「自動」を選ぶ。
- 3 別の入力の名称を変更するには、手順 1～2 を繰り返す。
- 4 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

#### お知らせ

外部機器の接続を外しても入力名は保持されます。初期値に戻すには、一度「手動」に切り替えてから「自動」に戻してください。

### 本体前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を、手動で設定します。

#### 設定メニュー

「ファンクション設定」 > 「入力名変更」

#### 対象の入力

HDMI1～4、AUDIO1～2、AV1～3、AUX、TUNER、USB

- 1 カーソルキーで名称を変更する入力を選ぶ。
- 2 カーソルキーで「手動」を選び、ENTER キーを押す。
- 3 カーソルキーや ENTER キーを使って名称を編集し、「確定」を選び ENTER キーを押す。

#### お知らせ

- 入力した内容を取り消すには、「取消」を選択します。
- 「リセット」を選択した場合は、入力の名称の初期値が表示されます。

- 4 別の入力の名称を変更するには、手順 1～3 を繰り返す。
- 5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

## 入力スキップを設定する

INPUT キーを操作したときにスキップする入力を設定します。使用しない入力をスキップすることで、目的の入力を素早く選べます。

### 設定メニュー

「ファンクション設定」 > 「入力スキップ」

### 対象の入力

HDMI1~4、AUDIO1~2、AV1~3、TUNER、USB、Bluetooth、AUX

### 設定値

オフ	スキップ設定しない。
オン	スキップ設定する。

## 本体前面ディスプレイの明るさを設定する

本体前面ディスプレイの明るさを調節します。

### 設定メニュー

「ファンクション設定」 > 「明るさ」

### 設定値

-4~0（値が大きいほど明るい）

### お知らせ

本機をエコモードに設定すると、ここで設定した明るさよりも暗くなることがあります。エコモードについては、次をご覧ください。

- 「エコモードを設定する」(68 ページ)

## 設定を保護する

本機の設定を保護して、変更できないようにします。

### 設定メニュー

「ファンクション設定」 > 「設定保護」

### 設定値

オフ	設定を保護しない。
オン	設定を保護する。「オフ」に戻すまで、設定変更が禁止されません。

### お知らせ

「オン」に設定時は、メニュー画面に設定保護（）アイコンが表示されます。

## リモコンのカラーキーの機能を変更する

リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの機能を設定します。

### 設定メニュー

「ファンクション設定」 > 「リモコンカラーキー」

### 設定値

初期値	HDMI で接続された AV 機器の機能にしたがう。 設定メニューの「HDMI コントロール」が「オン」に設定されている場合に有効です。
入力	カラーキーに本機の入力を割り当てる。割り当てる入力は個別に設定できます。 <b>対象の入力</b> HDMI1~4、AUDIO1~2、AV1~3、TUNER、USB、Bluetooth、AUX
プログラム	カラーキーにサウンド選択の機能を割り当てる。 RED：MOVIE GREEN：MUSIC YELLOW：STEREO BLUE：SUR.DECODE
TV コントロール	カラーキーに TV コントロールの機能を割り当てる。 RED: 終了（テレビ画面のメニューを閉じる） GREEN: 情報（解像度などテレビに関する情報を表示する） YELLOW: 放送（テレビ放送のタイプを切り替える） BLUE: 入力（テレビの入力を切り替える） 設定メニューの「HDMI コントロール」が「オン」に設定されている場合に有効です。

### お知らせ

- 「HDMI コントロール」については、次をご覧ください。  
- 「HDMI コントロールを設定する」(62 ページ)
- HDMI コントロール対応のテレビや AV 機器を本機に接続した場合、本機との連動設定が必要です。詳しくは次をご覧ください。  
- 「HDMI コントロールと連動機能」(90 ページ)
- HDMI コントロールや連動機能を設定しても、正しく機能しない場合があります。

## Bluetooth

### Bluetooth を設定する

Bluetooth 機能を使用するか設定します。

### 設定メニュー

「Bluetooth 設定」 > 「Bluetooth」

### 設定値

オフ	Bluetooth 機能を無効にする。
オン	Bluetooth 機能を有効にする。

### Bluetooth スタンバイを設定する

Bluetooth 機器から本機の電源操作をするか設定します。「オン」にすると、Bluetooth 機器で接続操作が行われたときに、自動的に本機の電源が入りません。

### 設定メニュー

「Bluetooth 設定」 > 「音声受信」 > 「Bluetooth スタンバイ」

### 設定値

オフ	Bluetooth スタンバイ機能を無効にする。
オン	Bluetooth スタンバイ機能を有効にする。「オフ」に設定時よりも電力を消費します。

## 言語設定

### メニュー言語を設定する

テレビ画面に表示するメニュー（設定メニューなど）の言語を設定します。

#### 設定メニュー

「言語設定」

#### 設定値

English	英語
日本語	日本語
Français	フランス語
Deutsch	ドイツ語
Español	スペイン語
русский	ロシア語
Italiano	イタリア語
中文	中国語

#### お知らせ

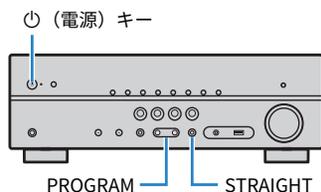
- 本体前面ディスプレイは常に英語で表示されます。
- 本体前面ディスプレイで表現できない文字は「\_」表示に置き換わります。

# アドバンスト設定を変更する（アドバンストセットアップメニュー）

## アドバンストセットアップメニューの基本操作

本体前面ディスプレイを使ったアドバンストセットアップメニューの基本的な操作方法を説明します。

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。
- 2 本体の STRAIGHT キーを押しながら ⏻（電源）キーを押す。



アドバンストセットアップメニューの先頭の設定項目とその設定値が、本体前面ディスプレイに表示されます。

- 3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。



- 4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。
- 5 ⏻（電源）キーで、電源をスタンバイにしてから再度電源を入れる。

これで設定は完了です。

### お知らせ

各メニューの初期値は、次をご覧ください。

- 「アドバンストセットアップメニュー初期値一覧」（100 ページ）

## アドバンストセットアップメニュー一覧

項目	説明	ページ
REMOTE ID	本体側のリモコン ID を変更します。	73
TV FORMAT	HDMI 映像出力のビデオ信号方式を切り替えます。	74
4K MODE	HDMI 4K 信号のフォーマットを設定します。	74
INIT	各種設定を初期化します。	75
UPDATE	ファームウェアを更新します。	75
VERSION	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。	75

## リモコン ID を設定する（REMOTE ID）

本体側のリモコン ID を、リモコン側のリモコン ID（初期値：ID1）と一致するように設定します。複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないようにしてください。

### アドバンストセットアップメニュー

「REMOTE ID」

### 設定値

ID1、ID2

### リモコン側のリモコン ID 設定

- リモコンを ID1 に設定するには、カーソルの左キーを押しながら SCENE（BD/DVD）キーを 5 秒間押し続けます。
- リモコンを ID2 に設定するには、カーソルの左キーを押しながら SCENE（TV）キーを 5 秒間押し続けます。

## ビデオ信号方式を設定する (TV FORMAT)

お使いのテレビにあわせて、本機の HDMI OUT 端子から出力されるビデオ信号方式を設定します。本機はテレビにあったビデオ信号方式を自動的に選択して出力するため、通常は変更する必要はありません。テレビの映像が乱れる場合のみ変更してください。

### アドバンスセットアップメニュー

「TV FORMAT」

### 設定値

NTSC、PAL

## HDMI 4K 信号のフォーマットを設定する (4K MODE)

HDMI 4K 対応のテレビおよび AV 機器を接続したときに、本機が入出力する信号のフォーマットを設定します。

### アドバンスセットアップメニュー

「4K MODE」

### 設定値

	次表に記載の 4K 信号を入出力する。
MODE 1	接続機器や HDMI ケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は、「MODE 2」に設定してください。
MODE 2	次表に記載の 4K 信号を入出力する。

### お知らせ

「MODE 1」に設定した場合は、プレミアムハイスピード HDMI ケーブルまたはイーサネット対応プレミアムハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。

### フォーマット

		MODE 1			MODE 2		
		8 bit	10 bit	12 bit	8 bit	10 bit	12 bit
4K/60, 50 Hz	RGB 4:4:4	✓	-			-	
	YCbCr 4:4:4	✓	-			-	
	YCbCr 4:2:2		✓			-	
	YCbCr 4:2:0		✓		✓		-
4K/30, 25, 24 Hz	RGB 4:4:4		✓		✓		-
	YCbCr 4:4:4		✓		✓		-
	YCbCr 4:2:2		✓			✓	

## 設定を初期化する (INIT)

本機の各種設定を初期化します。

アドバンスセットアップメニュー

「INIT」

選択項目

ALL	すべての設定を初期化する。
CANCEL	初期化しない。

## ファームウェアを更新する (UPDATE)

本機のファームウェアを更新します。

本機への機能追加や不具合の改善に応じて、ファームウェアは更新されることがあります。最新のファームウェアは弊社ウェブサイトからダウンロードできます。詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報をご確認ください。

アドバンスセットアップメニュー

「UPDATE」

### 注意

- ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードや USB 機器を抜いたりしないでください。万一、中断したときは本機が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。

### お知らせ

ファームウェア更新時以外は実行しないでください。また実行前には、更新時に提供される情報を必ずご確認ください。

## ファームウェアバージョンを確認する (VERSION)

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

アドバンスセットアップメニュー

「VERSION」

# 困ったときは

## 故障かな？と思ったら

### 故障かな？と思ったら最初にご確認ください

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、最初に次の項目をご確認ください。

- 本機、テレビ、AV 機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- 本機、サブウーファー、テレビ、AV 機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源が入っている。
- 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源や配線に問題がない場合は、症状に合わせて「故障かな？と思ったら」をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または「故障かな？と思ったら」のトラブル以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

### 電源/システム/リモコンのトラブル

#### ■ 電源が入らない

##### ● 保護回路が 3 回続けて作動した。

電源を入れようとすると、本体前面のスタンバイ表示が点滅する場合は、製品保護のために電源が入らなくなっています。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。

#### ■ テレビと連動して電源が入らない

##### ● 本機の HDMI コントロールの設定が「オフ」になっている。

電源の入/切りずれも連動しない場合は、本機の「HDMI コントロール」が「オン」になっているか確認してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「HDMI コントロールを設定する」(62 ページ)

##### ● テレビの HDMI コントロールの設定が「オフ」になっている。

電源の入のみが連動しない場合は、テレビ側の HDMI コントロールの設定が正しくない可能性があります。テレビの取扱説明書をご覧になり、HDMI コントロール機能を設定してください。

##### ● 停電などにより連動しなくなった。

HDMI ケーブルと電源ケーブルを抜いて 5 分ほど放電し、再生機、アンプ、テレビの順でケーブルを接続しなおしてください。

#### ■ 電源が切れない

##### ● 外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。

本体の  $\odot$ （電源）キーを 15 秒以上押し続けて本機を再起動してください。問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

#### ■ 電源がすぐに切れてしまう

##### ● スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れようとしている。

各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「スピーカーを接続する」(15 ページ)

## ■ 電源が自動的にスタンバイに切り替わる

### ● スリープタイマーが作動した。

もう一度電源を入れて、再生を始めてください。

### ● 操作がない状態で一定時間が経過したため、自動スタンバイ機能が作動した。

自動スタンバイ機能を無効にするには、設定メニューの「自動スタンバイ」を「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「自動スタンバイまでの時間を設定する」(68 ページ)

### ● スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。

各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは次をご覧ください。

-「スピーカーを接続する」(15 ページ)

### ● 音量を上げすぎたため、保護回路が作動した。

音量を下げてください。設定メニューの「エコモード」が「オン」の場合は、「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「エコモードを設定する」(68 ページ)

## ■ 本機が操作を受け付けない

### ● 外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。

本体の  $\odot$ （電源）キーを 15 秒以上押して本機を再起動してください。

問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

## ■ リモコンで本機を操作できない

### ● 操作範囲から外れている。

操作範囲内で操作してください。詳しくは次をご覧ください。

-「リモコンの操作範囲」(6 ページ)

### ● 乾電池が消耗している。

新しい乾電池に交換してください。

### ● 本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。

照明または本体の向きを変えてください。

### ● 本体とリモコンの ID が一致していない。

本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください。詳しくは次をご覧ください。

-「リモコン ID を設定する (REMOTE ID)」(73 ページ)

## ■ INPUT キーを押しても目的の入力を選択できない

### ● 入力をスキップする設定がされている。

設定メニューの「入力スキップ」で対象の入力を「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「入力スキップを設定する」(70 ページ)

## ■ リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーが動作しない

### ● HDMI 接続した機器が RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応していない。

RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応した機器をご使用ください。

### ● RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの設定を変更している。

設定メニューの「リモコンカラーキー」を「初期値」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「リモコンのカラーキーの機能を変更する」(71 ページ)

## 音声のトラブル

### ■ 音が出ない

#### ● 別の入力を選択されている。

入力選択キーで正しい入力を選んでください。詳しくは次をご覧ください。

- 「再生の基本操作」(35 ページ)

#### ● 本機で再生できない信号が入力されている。

一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。本機で再生可能な信号が確認してください。対応するファイルフォーマット、HDMIの音声フォーマット、対応デコードフォーマットについては、次をご覧ください。

- 「対応しているフォーマット」(89 ページ)

- 「主な仕様」(94 ページ)

#### ● 本機と AV 機器を接続しているケーブルが破損している。

接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

### ■ 音量が上がらない

#### ● 音量の上限値が低く設定されている。

設定メニューの「音量の上限」で上限値を調節してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「音量の上限を設定する」(67 ページ)

#### ● 本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。

該当機器すべての電源を入れてください。

### ■ 特定のスピーカーから音が出ない

#### ● 再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。

オプションメニューの「信号情報」にある「チャンネル」で、入力信号のチャンネル数を確認できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「映像/音声信号情報を確認する」(53 ページ)

#### ● 該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。

設定メニューの「テストトーン」で、スピーカーから音声が出力されるか確認できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「テストトーンを出力する」(61 ページ)

#### ● 該当スピーカーの音声出力が無効になっている。

YPAO を実行するか、設定メニューの「構成」で該当スピーカーのサイズまたは有無を設定してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(27 ページ)

- 「サブウーファースの有無を設定する」(58 ページ)

- 「フロントスピーカーのサイズを設定する」(58 ページ)

- 「センタースピーカーの有無やサイズを設定する」(59 ページ)

- 「サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する」(59 ページ)

#### ● 該当スピーカーの音量が極端に小さい。

YPAO を実行するか、設定メニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(27 ページ)

- 「スピーカーの音量を個別に調整する」(61 ページ)

#### ● 本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。

スピーカー側とアンプ側の各端子を確認のうえ、接続に問題なければ、ケーブルの断線が考えられます。別のケーブルに交換してください。

#### ● 該当スピーカーが故障している。

正常に機能している別のスピーカーと交換すると確認できます。交換したスピーカーから音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。

## ■ サブウーファーから音が出ない

### ●再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。

確認するには、設定メニューの「エクストラベース」を「オン」に設定して、フロントチャンネルの低音域をサブウーファーから出力してください。詳しくは次をご覧ください。

-「エクストラベースを設定する」(60 ページ)

### ●サブウーファーの出力が無効になっている。

YPAO を実行するか、設定メニューの「サブウーファー」を「使用する」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(27 ページ)

-「サブウーファーの有無を設定する」(58 ページ)

### ●サブウーファーの音量が極端に小さい。

サブウーファーの音量を調節してください。

### ●サブウーファーのオートスタンバイ (自動的に電源を切る機能) が作動した。

サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。

## ■ HDMI で接続した AV 機器の音が出ない

### ●テレビが著作権保護 (HDCP) に対応していない。

テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。

### ●HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。

使用していない HDMI 機器を取り外してください。

## ■ HDMI コントロール使用時に、AV 機器の音声の本機から出ない

### ●テレビ側で、テレビのスピーカーから音声出力するように設定されている。

テレビ音声の本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。

### ●入力としてテレビの音声を選択されている。

入力選択キーで正しい入力を選んでください。

## ■ HDMI コントロール使用時に、テレビの音声の本機から出ない

### ●テレビ側で、テレビのスピーカーから音声出力するように設定されている。

テレビ音声の本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。

### ●ARC に対応していないテレビを HDMI ケーブルのみで接続している。

テレビ音声を光デジタルケーブルで接続してください。詳しくは次をご覧ください。

-「テレビを HDMI 接続する」(21 ページ)

### ●音声ケーブルで本機とテレビを接続している場合に、「TV 音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。

設定メニューの「TV 音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください。詳しくは次をご覧ください。

-「テレビからの音声を入力する端子を設定する」(63 ページ)

### ●ARC を使ってテレビ音声を入力する場合に、本機またはテレビの ARC が無効になっている。

設定メニューの「ARC」を「オン」に設定してください。

また、テレビ側で ARC を有効にしてください。詳しくは次をご覧ください。

-「ARC を設定する」(64 ページ)

## ■ マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない

- 音場プログラムとして「2ch ステレオ」を選択している。  
「2ch ステレオ」以外の音場プログラムを選択してください。詳しくは次をご覧ください。  
-「音場プログラムを選択する」(49 ページ)

## ■ 雑音が入る

- デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。  
本機と該当機器の距離を離してください。
- 本機と AV 機器を接続しているケーブルが破損している。  
接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

## ■ 音がひずむ

- 本機の音声出力端子に接続されている外部アンプなどの機器の電源が切れている。  
該当機器すべての電源を入れてください。
- 音量が大きすぎる。  
音量を下げてください。  
また、設定メニューの「エコモード」が「オン」に設定されている場合は、「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。  
-「エコモードを設定する」(68 ページ)

## 映像のトラブル

### ■ 映像が出ない

- 本機で別の入力を選択されている。  
入力選択キーで入力（ビデオ機器）を選んでください。
- テレビで別の入力を選択されている。  
テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
- テレビが非対応の映像信号を出力している。  
AV 機器の映像出力が適切に設定されているか確認してください。
- 本機、テレビ、AV 機器を接続しているケーブルが破損している。  
接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

### ■ HDMI で接続した AV 機器の映像が出ない

- 本機が非対応の映像信号（解像度）を入力している。  
入力中の映像信号（解像度）と、本機が対応している映像信号については、次をご覧ください。  
-「映像/音声信号情報を確認する」(53 ページ)  
-「対応している HDMI 信号」(92 ページ)
- テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。  
テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
- HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。  
使用していない HDMI 機器を取り外してください。

## ■ HDMI 接続した AV 機器からの映像（HDCP2.2 対応機器が必要なコンテンツ）が表示されない

- **テレビ（HDMI 入力端子）が HDCP2.2 に対応していない。**  
HDCP2.2 対応のテレビ（HDMI 入力端子）に接続してください（テレビ画面に注意メッセージが表示される場合があります）。

## ■ 本機のメニューがテレビに表示されない

- **本機とテレビが HDMI ケーブルで接続されていない。**  
本機のメニューをテレビに表示するには、本機とテレビを HDMI で接続する必要があります。詳しくは次をご覧ください。  
-「テレビを HDMI 接続する」(21 ページ)
- **テレビで別の入力を選択されている。**  
テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替えてください。

## FM/AM ラジオのトラブル

### ■ FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る

- **マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。**  
FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。
- **ラジオ局から離れた地域で受信している。**  
オプションメニューの「FM モード」を「モノラル」に設定して、モノラル受信に切り替えてください。詳しくは次をご覧ください。  
-「FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する」(54 ページ)

### ■ AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る

- **蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。**  
環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減できることがあります。

### ■ FM/AM ラジオの自動選局ができない

- **FM ラジオ局から離れた地域で受信している。**  
手動で選局してください。詳しくは次をご覧ください。  
-「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」(38 ページ)  
また、市販の屋外アンテナを使用してください。
- **AM ラジオの電波が弱い。**  
AM アンテナの方向を変えてください。  
手動で選局してください。詳しくは次をご覧ください。  
-「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」(38 ページ)  
また、市販の屋外アンテナを使用してください。ANTENNA (AM) 端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。

### ■ AM ラジオ局を登録（プリセット）できない

- **自動登録（オートプリセット）を使用した。**  
オートプリセットは FM ラジオ局のみが対象です。AM ラジオ局は手動で登録してください。詳しくは次をご覧ください。  
-「ラジオ局を手動で登録する」(40 ページ)

## USB のトラブル

---

### ■ USB 機器が認識されない

- **USB 機器が USB 端子に正しく接続されていない。**  
本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。
- **FAT16/32 フォーマット以外の USB 機器を使用している。**  
FAT16/32 フォーマットの USB 機器を使用してください。

### ■ USB 機器のフォルダーやファイルが表示されない

- **暗号化機能により USB 機器内のデータが保護されている。**  
暗号化機能のない USB 機器を使用してください。

### ■ USB 機器のファイルを連続して再生できない

- **選択したフォルダーに、本機で再生できないファイルが含まれている。**  
再生するフォルダーには、本機で再生できないファイルを入れないでください。

## Bluetooth®のトラブル

---

### ■ Bluetooth 機器とペアリングできない

- **本機がすでに別の Bluetooth 機器と接続されている。**  
現在の Bluetooth 接続を切断してから、目的の Bluetooth 機器とペアリングしてください。
- **本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。**  
本機と Bluetooth 機器を近づけてペアリングしてください。
- **2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。**  
本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。
- **ペアリングする Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない。**  
A2DP プロファイル対応の Bluetooth 機器とペアリングしてください。

## ■ Bluetooth®機器と接続できない

### ● 本機の Bluetooth 機能が無効になっている。

Bluetooth 機能を有効にしてください。詳しくは次をご覧ください。

- 「Bluetooth を設定する」 (71 ページ)

### ● 本機が別の Bluetooth 機器と接続されている。

現在の Bluetooth 接続を切断してから、目的の Bluetooth 機器と接続してください。

### ● ペ어링情報が消えた。

Bluetooth 機器内のペ어링情報を削除して、再度ペ어링してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「Bluetooth®機器を接続する (ペ어링)」 (41 ページ)

本機は最大 16 台の Bluetooth 機器とペ어링できます。17 台目の接続機器とのペ어링が成功すると、接続した日時がもっとも古い接続機器のペ어링情報が削除されます。

### ● 本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。

本機と Bluetooth 機器を近づけてください。

### ● 2.4GHz 周波数帯を使用する機器 (電子レンジ、無線 LAN など) からの干渉により、無線通信が妨害されている。

本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。

### ● お使いの Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない。

A2DP プロファイル対応の Bluetooth 機器をお使いください。

### ● Bluetooth 機器に登録されているペ어링情報が何らかの原因で正しく機能していない。

Bluetooth 機器のペ어링情報を削除してから、本機と Bluetooth 機器のペ어링操作を行ってください。詳しくは次をご覧ください。

- 「Bluetooth®機器を接続する (ペ어링)」 (41 ページ)

## ■ Bluetooth®接続時に音が出ない、音が途切れる

### ● Bluetooth 機器の音量が小さすぎる。

Bluetooth 機器の音量を上げてください。

### ● Bluetooth 機器の出力切り替えが本機に設定されていない。

Bluetooth 機器の出力切り替えを本機に設定してください。

### ● Bluetooth 接続が切断された。

再度 Bluetooth 接続を行ってください。詳しくは次をご覧ください。

- 「Bluetooth®機器の音声を本機で再生する」 (42 ページ)

### ● 距離が離れすぎている。

Bluetooth 機器を本機の近くに移動してください。

### ● 2.4GHz 周波数帯を使用する機器 (電子レンジ、無線 LAN など) からの干渉により、無線通信が妨害されている。

本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。

## 本体前面ディスプレイのエラー表示

### 本体前面ディスプレイのエラー表示

本体前面ディスプレイにエラーが表示された場合は、次表をご確認ください。

メッセージ (アルファベット順)	内容	対策
Access error	USB 機器にアクセスできない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Check SP Wires	スピーカーケーブルがショートしている。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは次をご覧ください。 ・「スピーカーを接続する」(15 ページ)
Internal Error	本機の内部でエラーが発生している。	ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
No content	選択したフォルダーに本機が再生可能なファイルが含まれていない。	本機が再生可能なファイルが含まれている、別のフォルダーを選択してください。
No device	USB 機器が認識されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Not found	Bluetooth 機器が見つからない。	・ Bluetooth 機器を本機から 10m 以内に移動してください。 ・ 再度ペアリングしてください。
RemID Mismatch	リモコン ID が一致していない。	リモコンまたは本機のリモコン ID を変更して ID を一致させてください。詳しくは次をご覧ください。 ・ 「リモコン ID を設定する (REMOTE ID)」(73 ページ)
USB Overloaded	USB 機器に過電流が流れている。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Version error	ファームウェアの更新に失敗している。	再度ファームウェアを更新してください。詳しくは次をご覧ください。 ・ 「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(75 ページ)
Update failed.	ファームウェアの更新に失敗している。	INFO キーを押し再度ファームウェアを更新してください。詳しくは次をご覧ください。 ・ 「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(75 ページ)

# 付録

## 入出力端子とケーブル

### 映像/音声を入出力する端子

#### ■ HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を伝送します。接続には、HDMI ケーブルを使います。



#### お知らせ

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル (19 ピン) をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- HDMI コントロール、オーディオリターンチャンネル (ARC)、3D 映像、4K Ultra HD 映像の伝送に対応しています。
- 3D 映像、4K Ultra HD 映像をお楽しみになる場合は、プレミアムハイスピード HDMI ケーブルまたはイーサネット対応プレミアムハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。

### 映像を入出力する端子

#### ■ VIDEO 端子

アナログ映像を伝送します。接続には、映像用ピンケーブルを使います。



### 音声を入出力する端子

#### ■ OPTICAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、光デジタルケーブルを使います。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。



#### ■ COAXIAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、同軸デジタルケーブルを使います。



### ■ AUDIO 端子

アナログステレオ音声を伝送します。

#### (ステレオ L/R 端子)

接続には、ステレオピンケーブルを使います。



#### (ステレオミニ端子)

接続には、ステレオミニプラグのケーブルを使用します。



### 音声に関する用語

#### ■ 音声デコードフォーマットに関する用語

本説明書で使用する音声デコードフォーマットに関する用語を解説します。

##### サンプリング周波数と量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz/24bit などのように表現されます。

- サンプリング周波数

1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。

- 量子化ビット数

音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

##### AAC（アドバンスド・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS/地上波デジタル放送で採用されています。

##### Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD などで採用されています。

##### Dolby Digital Plus

ドルビーラボラトリーズにより開発された、7.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

##### Dolby Pro Logic II

2 チャンネルで記録された音声信号を 5 チャンネル信号に変換する技術です。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

##### Dolby TrueHD

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリット音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

##### DTS デジタルサラウンド

DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD などで採用されています。

##### DTS96/24

高品質 96kHz/24bit 5.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。音楽 DVD などで採用されています。

##### DTS Express

DTS Digital Surround フォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した 5.1 チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

##### DTS-HD High Resolution Audio

DTS 社により開発された高品質 96kHz/24bit 7.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

##### DTS-HD Master Audio

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS 社により開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリット音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

##### DTS Neo:6

2 チャンネルで記録された信号のソースを、6 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Cinema モード、音楽用の Music モードが用意されています。ディスクリット方式で記録されたソースのようなチャンネル分離感を実現します。

##### DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで採用されている、デジタル信号を記録する方式の一つです。2.8224Mbps や 5.6448Mbps の高ビットレートで記録され、CD よりも高音質な再生ができます。収録可能な周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。

## MP3

MPEG 圧縮技術を使用した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

## MPEG-4 AAC

MPEG-4 オーディオ規格の 1 つです。音質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮できます。携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高音質が求められる機器や、インターネット上のコンテンツ配信などにも利用されています。

## PCM (パルス・コード・モジュレーション)

アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CD をはじめとしてさまざまなコンテンツで採用されており、リニア PCM とも呼ばれています。

## WAV

Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は PCM データ (非圧縮) が使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

## WMA (Windows Media Audio)

Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/20 に圧縮できると言われています。

## ■ 音声デコードフォーマット以外の音声に関する用語

本説明書で使用する音声に関する用語を解説します。

### バイアンプ接続

スピーカーのウーファーとツイーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して駆動することにより、相互影響を排除した、よりクリアな音声を楽しめます。

### リップシンク (Lipsync)

音声と映像の出力タイミングのずれを補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声に対して映像が遅れてしまう症状を補正します。

### LFE (低域効果音) 0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20~120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用のチャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されません。

## HDMI/映像に関する用語

本説明書で使用する HDMI/映像に関する用語を解説します。

### コンポジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。

### Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたため、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

### HDMI

世界業界標準規格である HDMI (High-Definition Multimedia Interface Specification) 規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ/オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術 (HDCP : High-bandwidth Digital Content Protection System) に対応しています。より詳しい情報は、<http://www.hdmi.org> を参照ください。

### x.v.Color

HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の 1 つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

## ヤマハテクノロジーに関する用語

本説明書で使用するヤマハテクノロジーに関する用語、技術を解説します。

### サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場再生を仮想的に再現する技術です。すべての音場プログラムはヘッドホン用に効果調整されており、自然で立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

### シネマ DSP (デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサ)

本来映画館用に設計されたシステムをご家庭で再生すると、部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。シネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

### バーチャルシネマ DSP

フロントスピーカー 2 本のみでも、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを設置していなくとも、豊かな音場プログラム再生をお楽しみいただけます。

### バーチャルシネマフロント

サラウンドスピーカーを前方に配置したときに、後方の音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを前方に配置しても、サラウンド再生をお楽しみいただけます。

### ミュージックエンハンサー

携帯音楽プレーヤーや PC などで使用される圧縮オーディオフォーマット (MP3、AAC など) で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮オーディオをより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

### YPAO (Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整する技術です。

## 対応している機器とフォーマット

### 対応している Bluetooth 機器

本機が対応している Bluetooth 機器は、次をご確認ください。

- A2DP プロファイルに対応した Bluetooth 機器に対応しています。
- すべての Bluetooth 機器に対する接続を保証するものではありません。

### 対応している USB 機器

本機が対応している USB 機器は、次をご確認ください。

- 本機は、FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの機器（フラッシュメモリーなど）に対応しています。
- USB マスストレージクラス以外の機器（USB チャージャー、USB ハブなど）、パソコン、カードリーダー、外付けハードディスクを接続しないでください。
- 暗号化機能がある USB 機器は使用できません。
- すべての USB 機器に対する接続を保証するものではありません。

### 対応しているフォーマット

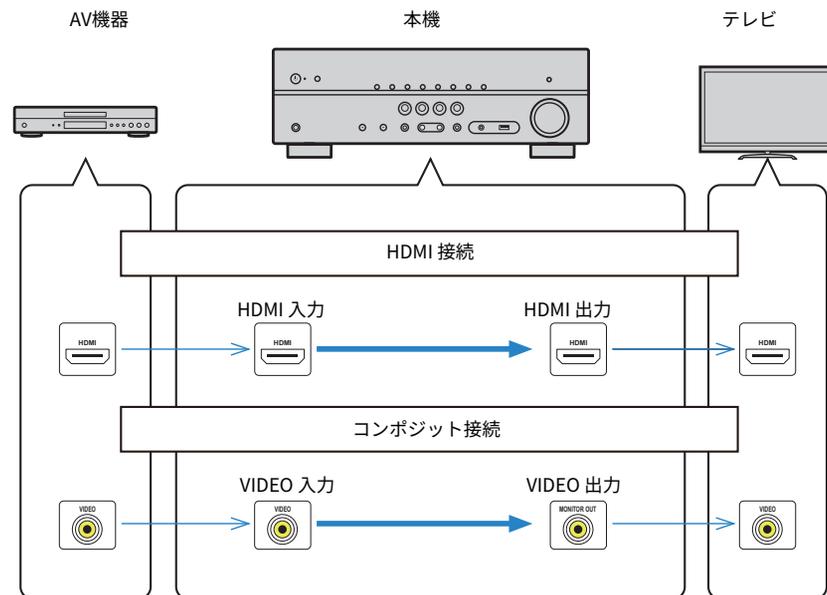
本機が対応している USB のファイルフォーマットは、次をご確認ください。

- 1ch または 2ch の音声ファイルとして、WAV（リニア PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA、MPEG-4 AAC に対応しています。
- サンプリング周波数 48kHz まで対応しています。
- 量子化ビット数は 16bit に対応しています。
- DRM（デジタル著作権管理）により保護されたファイルは再生できません。

## 映像信号の流れ

### 映像信号の流れ

AV 機器から本機に入力された映像信号は、次のようにテレビに出力されます。



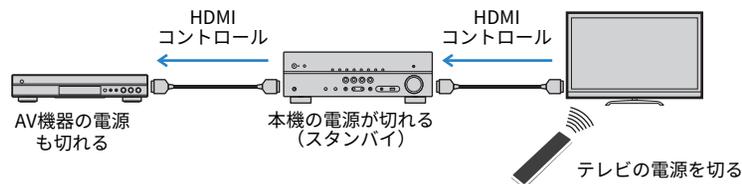
## HDMI について

### HDMI コントロールと連動機能

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます (HDMI コントロール)。また HDMI ケーブルで接続した AV 機器 (HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど) も操作できます。

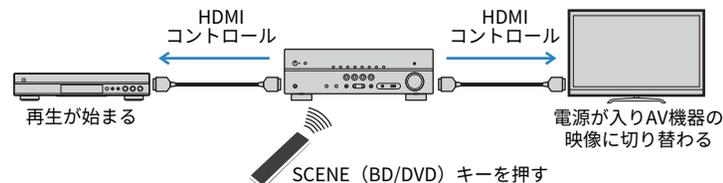
#### テレビのリモコン操作による連動機能

- 電源スタンバイ
- 音量調節および消音
- テレビで内蔵チューナー選択時に、本機の入力をテレビ音声入力に切り替え
- テレビで AV 機器を選択時に、本機の入力を AV 機器に切り替え (映像をテレビに出力)
- 音声出力機器の切り替え (本機またはテレビ)



#### 本機のリモコン操作による連動機能

- シーン選択と連動して外部機器の再生開始およびテレビの電源入
- テレビの入力を本機の映像に切り替えて設定メニューを表示 (SETUP キー操作時)
- テレビに映像を表示している AV 機器 (再生機能およびメニュー) を操作
- 設定メニューの「TV 音声入力」で設定された入力を選択時に、テレビを操作
- リモコンのカラーキー (RED、GREEN、YELLOW、BLUE) の機能に「TV コントロール」を割り当てた場合、カラーキーでテレビを操作



#### お知らせ

- HDMI コントロールは正しく機能しない場合があります。
- シーン選択との連動については、次をご覧ください。
  - 「SCENE キーに登録したシーンを呼び出す」(45 ページ)
- 設定メニューの「TV 音声入力」については、次をご覧ください。
  - 「テレビからの音声を入力する端子を設定する」(63 ページ)
- カラーキーの機能設定については、次をご覧ください。
  - 「リモコンのカラーキーの機能を変更する」(71 ページ)

HDMI コントロールを使うには、テレビ、AV 機器を接続後に次の連動設定が必要です。テレビ、AV 機器の設定や操作については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

#### お知らせ

HDMI コントロール対応の機器を新しく追加するたびに、次の設定が必要になります。

### 1 本機、テレビ、AV 機器の電源を入れる。

## 2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の AV 機器 (BD/DVD レコーダーなど) の HDMI コントロール機能を有効にする。

本機の HDMI コントロール機能を有効にするには、設定メニューの「HDMI コントロール」を「オン」に設定してから、関連項目 (TV 音声入力、スタンバイ連動、ARC、シーン連動) を設定します。詳しくは次をご覧ください。

- 「HDMI コントロールを設定する」 (62 ページ)

## 3 テレビの主電源を切ってから、本機と AV 機器の電源を切る。

## 4 本機と AV 機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。

## 5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

## 6 本機の入力が AV 機器からの HDMI 入力 (「HDMI1~4」のいずれか) に切り替わっていることを確認する。

ほかの入力が選ばれている場合は、手動で AV 機器からの入力を選んでください。

## 7 テレビ画面に AV 機器の映像が表示されていることを確認する。

## 8 テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。

### お知らせ

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、AV 機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善される場合があります。また HDMI コントロール連動機器が制限数を超過して接続されていると正しく機能しない場合があります。この場合は、使用していない機器の HDMI コントロールを無効にしてください。
- 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと AV 機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。

## オーディオリターンチャンネル (ARC)

本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力できます。HDMI コントロールの設定後、次の手順で確認してください。

### お知らせ

HDMI コントロールの設定については、次をご覧ください。

- 「HDMI コントロールと連動機能」 (90 ページ)

### 1 テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶ。

### 2 本機の入力が自動的に「AUDIO1」に切り替わり、テレビの音声の本機から出力されることを確認する。

テレビの音声が出力されない場合は、次をご確認ください。

- 設定メニューの「ARC」が「オン」になっている。詳しくは次をご覧ください。
    - 「ARC を設定する」 (64 ページ)
  - HDMI ケーブルがテレビの ARC 対応 HDMI 端子に接続されている。
- テレビの HDMI 端子が ARC に対応していない場合もあります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

### お知らせ

- ARC 使用時に音声が途切れる場合は、設定メニューの「ARC」を「オフ」に設定し、光デジタルケーブルで本機とテレビを接続してください。詳しくは次をご覧ください。
  - 「ARC を設定する」 (64 ページ)
  - 「OPTICAL 端子」 (85 ページ)
- ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルでテレビと本機を接続してください。
- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AUDIO1」が設定されています。AUDIO1 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能を使う場合は、SCENE (TV) キーの入力設定もあわせて変更してください。詳しくは次をご覧ください。
  - 「テレビからの音声を入力する端子を設定する」 (63 ページ)
  - 「SCENE キーの登録内容を変更する」 (46 ページ)

## 対応している HDMI 信号

---

本機の HDMI 信号については、次をご確認ください。

- 一部の AV 機器は、コピープロテクトがかかった DVD オーディオの映像/音声を出力できません。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、AV 機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、AV 機器で設定を変更してください。詳しくは、AV 機器の取扱説明書をご覧ください。
- AV 機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル音声（光デジタルまたは同軸デジタル）で本機に入力すれば、音声解説を楽しめます。詳しくは、AV 機器の取扱説明書をご覧ください。なお、BD などの音声解説（インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

## 商標

本説明書で使用している商標です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー、Dolby Audio、Pro Logic、Dolby Vision、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS Licensing Limited のライセンスに基づき製造しています。DTS、DTS-HD、それらのシンボルマークおよび DTS とそのシンボルマークの組み合わせは、DTS 社の登録商標です。

©DTS, Inc. All Rights Reserved.



AAC ロゴマーク（マーク）はドルビーラボラトリーズの商標です。

SILENT™  
CINEMA

「サイレントシネマ™ SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

App Store は Apple Inc. のサービスマークです。



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

Android™ Google Play™

Android、Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

### Google Noto Fonts

本製品は以下のフォントを使用しています。

Noto Sans Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/#sans-lgc>)

© June 2015, Google Noto Sans CJK Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/help/cjk/>)

© June 2015, Google

これらのフォントソフトウェアは、SIL Open Font License 1.1 のもとでライセンスされています。ライセンスに関しては、<http://scripts.sil.org/OFL> の FAQ をご覧ください。

# 主な仕様

## 主な仕様

本機の主な仕様です。

### 入力端子

アナログ音声

- ステレオ×3 (AUX[3.5mm ミニ端子]含む)

デジタル音声 (対応 fs: 32kHz~96kHz)

- 光×1
- 同軸×2

映像

- コンポジットビデオ×3

HDMI 入力

- HDMI×4

その他

- USB×1 (USB2.0)

### 出力端子

アナログ音声

- スピーカー出力×5 (フロント左/右、センター、サラウンド左/右\*)

\* 割り当て変更可能

[サラウンド、バイアンプ (フロント左/右)]

- サブウーファー出力×1
- ヘッドホン×1

映像

- コンポジットビデオ×1

HDMI 出力

- HDMI×1

### その他の端子

YPAO MIC×1

## HDMI

HDMI 機能

- 4K UltraHD Video (include 4K/60、50Hz 10/12bit)、3D Video、オーディオリターンチャンネル (ARC)、HDMI コントロール (CEC)、オートリップシンク、Deep Color、“x.v.Color”、HD オーディオ再生、HDMI スタンバイスルー時の入力切替機能、21:9 アスペクト比、BT.2020 対応、HDR 対応 (HDR10、Dolby Vision、HLG)

映像フォーマット (リピーターモード)

- VGA
- 480i/60Hz
- 576i/50Hz
- 480p/60Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz、50Hz
- 1080i/60Hz、50Hz
- 1080p/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 4K/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz

音声フォーマット

- Dolby TrueHD
- Dolby Digital Plus
- Dolby Digital
- DTS-HD Master Audio
- DTS-HD High Resolution Audio
- DTS Express
- DTS
- DSD 2~6 チャンネル (2.8MHz)
- PCM 2~8 チャンネル (Max 192kHz/24bit)
- AAC

著作権保護：HDCP 2.2 準拠

リンク機能：CEC 対応

## チューナー

アナログチューナー

- FM/AM×1 (TUNER)

## USB

USB マスストレージクラス

最大供給電流：0.5A

## Bluetooth

受信動作

- Bluetooth 機器（スマートフォン、タブレットなど）からの受信機能
- サポートプロファイル
  - A2DP
- 対応コーデック
  - SBC

送信動作

- Bluetooth 機器（Bluetooth ヘッドホンなど）への送信機能
- サポートプロファイル
  - A2DP
- 対応コーデック
  - SBC
- Bluetooth 機器（Bluetooth ヘッドホンなど）からの再生/停止操作が可能

Bluetooth バージョン

- 2.1+EDR

ワイヤレス出力

- Bluetooth Class 2

最大通信距離

- 10m（障害物がないこと）

## 対応デコードフォーマット

デコードフォーマット

- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus
- Dolby Digital
- DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express
- DTS、DTS 96/24
- AAC

ポストデコードフォーマット

- Dolby Pro Logic II Music, Dolby Pro Logic II Movie, Dolby Pro Logic II Game
- DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema

## オーディオ部

---

定格出力（2ch 駆動）（20Hz～20kHz、0.09%THD、6Ω）	
• フロント左/右	70W+70W

---

定格出力（1ch 駆動）（1kHz、0.9%THD、6Ω）	
• フロント左/右、センター、サラウンド左/右	100W/ch

---

実用最大出力（JEITA、1kHz、10%THD、6Ω）	
• フロント左/右、センター、サラウンド左/右	135W/ch

---

ダイナミックパワー（IHF）	
• フロント左/右（6Ω/4Ω/2Ω）	110/130/150W

---

ダンピングファクター	
• フロント左/右（20Hz～20kHz、8Ω）	100 以上

---

入力感度/入力インピーダンス	
• AV2 他（1kHz、100W/6Ω 換算）	200mV/47kΩ

---

最大許容入力	
• AV2 他（1kHz、0.5%THD、Effect On）	2.3V

---

出力電圧/出力インピーダンス	
• サブウーファー	1V/1.2kΩ

ヘッドホン出力/出力インピーダンス	
• AV2 他 (1kHz、50mV、8Ω)	100mV/470Ω
周波数特性	
• AV2 他→フロント (10Hz~100kHz)	+0/-3dB
S/N 比 (IHF-A ネットワーク)	
• AV2 他 (入力 1kΩ ショート、SP OUT)	110dB 以上
残留ノイズ (IHF-A ネットワーク)	
• フロント左/右 (SP OUT)	150μV 以下
チャンネルセパレーション	
• AV2 他 (入力 1kΩ ショート、1kHz/10kHz)	70dB/50dB 以上
音量可変範囲	MUTE、-80dB~+16.5dB (0.5dB ステップ)
トーンコントロール特性	
• BASS (可変幅)	±6dB/0.5dB ステップ、50Hz
• BASS (ターンオーバー周波数)	350Hz
• TREBLE (可変幅)	±6dB/0.5dB ステップ、20kHz
• TREBLE (ターンオーバー周波数)	3.5kHz
フィルター特性 (fc = 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz)	
• H.P.F. (フロント、センター、サラウンド)	12dB/oct.
• L.P.F. (サブウーファー)	24dB/oct.

## ビデオ部

ビデオ信号方式	NTSC
信号レベル	
• コンポジットビデオ信号	1Vp-p/75Ω
ビデオ最大許容入力	1.5Vp-p 以上
S/N 比	50dB 以上

## FM チューナー部

受信周波数範囲	76.0MHz~94.9MHz (FM 補完放送対応)
50dB SN 感度 (IHF、1kHz、100% MOD.)	
• モノラル	3μV (20.8dBf)
S/N 比 (IHF)	
• モノラル/ステレオ	65dB/64dB
歪率 (1kHz)	
• モノラル/ステレオ	0.5%/0.6%
アンテナ入力	75Ω、アンバランス

## AM チューナー部

受信周波数範囲	531~1611kHz
---------	-------------

## 総合

電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	260W

待機時消費電力	
• HDMI コントロールオフ、スタンバイスルーオフ、Bluetooth スタンバイオフ	0.2W
• HDMI コントロールオン、スタンバイスルー自動、Bluetooth スタンバイオフ、HDMI1 入力（無信号時）	1.2W
• HDMI コントロールオン、スタンバイスルーオン、Bluetooth スタンバイオフ、HDMI1 入力（無信号時）	1.2W
• HDMI コントロールオフ、スタンバイスルーオフ、Bluetooth スタンバイオン	0.2W
• HDMI コントロールオン、スタンバイスルー自動、Bluetooth スタンバイオン、HDMI1 入力（無信号時）	1.2W
• HDMI コントロールオン、スタンバイスルーオン、Bluetooth スタンバイオン、HDMI1 入力（無信号時）	1.2W
最大消費電力	600W
寸法（幅×高さ×奥行き）	435×161×315mm（脚部、突起物を含む）
質量	7.7kg

\* この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。

## 初期値一覧

### オプションメニュー初期値一覧

本機のオプションメニューの初期値は、次をご確認ください。

トーンコントロール 高音 (Treble)、低音 (Bass)  
ともにバイパス (0.0dB)

\* 高音 (Treble) と低音 (Bass) の両方が 0.0dB の場合は、「バイパス」 (Bypass) と表示されます。

#### DSP/サラウンド

- エフェクト量の加減 0dB
- アダプティブ DRC オフ (Off)
- 多重モノラル音声 主音声 (Main)
- エンハンサー
  - TUNER、Bluetooth、USB オン (On)
  - その他 オフ (Off)

#### 再生レベル補正

- 入力レベル補正 0.0dB
- サブウーファーレベル補正 0.0dB

リップシンク設定 オン (On)

映像選択 オフ (Off)

FM モード ステレオ (Stereo)

リピート オフ (Off)

入力連動 オン (On)

### 設定メニュー初期値一覧

本機の設定メニューの初期値は、次をご確認ください。

#### スピーカー設定

##### 構成

- パワーアンプ割り当て サラウンド
- サブウーファー 使用する
- フロント 小
- センター 小
- サラウンド 小
- 低音クロスオーバー 80Hz
- サブウーファー位相 正相
- エクストラベース オフ
- バーチャルシネマフロント オフ

距離 3.00m

音量 0.0dB

イコライザー オフ

テストトーン オフ

#### HDMI 設定

HDMI コントロール オン

音声出力 オフ

スタンバイスルー オン

4K アップスケーリング	オフ
HDCP バージョン	
• HDMI1~4	自動
TV 音声入力	AUDIO1
スタンバイ連動	自動
ARC	オン
シーン連動	
• BD/DVD、TV	オン
• CD、RADIO	オフ

## 音声設定

DSP パラメーター	
• パノラマ	オフ
• センターの広がり	3
• ディメンション	0
• センターイメージ	0.3
• モノラルミックス	オフ
リップシンク	
• 自動/手動選択	自動補正
	(自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合 のみ有効)
• 調整	0ms
ダイアログ	
• セリフ音量調整	0

音量	
• 音量表示	dB
• ダイナミックレンジ	最大
• 音量の上限	+16.5dB
• 音量の初期値	オフ

## エコ設定

自動スタンバイ	オフ
エコモード	オフ

## ファンクション設定

入力名変更	
• HDMI1 ~ 4	自動
• その他	手動
	(AUX、TUNER、USB は「手動」 のみ選択可)
入力スキップ	オフ
明るさ	0
設定保護	オフ
リモコンカラーキー	初期値

## Bluetooth 設定

Bluetooth	オン
音声受信	
• デバイス切断	—
• Bluetooth スタンバイ	オン

音声送信	
• 音声送信機能	オフ
• デバイス検索	—

## 言語設定

日本語

## アドバンスドセットアップメニュー —初期値一覧

本機のアドバンスドセットアップメニューの初期値は、次をご確認ください。

REMOTE ID	ID1
TV FORMAT	NTSC
4K MODE	MODE 1
INIT	CANCEL
UPDATE	USB





# お問い合わせ窓口

## ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

### ■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル  
(全国共通)  **0570-011-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。  
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。  
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00  
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

## ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

### ■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル  
(全国共通)  **0570-012-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。  
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。  
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00  
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

### FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様  
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様  
(06) 6649-9340

### 修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00  
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)  
\*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

### 東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
FAX (03) 5762-2125

### 西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪府浪速区難波中1丁目13-17  
ナンバ辻本ニッセビル7F  
FAX (06) 6649-9340

\*名称、住所、電話番号、URLなどに変更になる場合があります。

## 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

### ● 保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

### ● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### ● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

### ● 修理料金の仕組み

**技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

**部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

**出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

### ● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

### ● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼される時は製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。  
\* 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

### ● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

### ● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

#### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

\* このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

## 永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

### こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



**すぐに使用を中止してください。**

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

Yamaha Global Site  
<https://www.yamaha.com/>

Yamaha Downloads  
<http://download.yamaha.com/>

Manual Development Group  
© 2018 Yamaha Corporation

2018年2月発行 NV-A0

ZZ79020